

鹿児島県埋蔵文化財調査報告書(61)

北薩・伊佐地区埋蔵文化財 分布調査報告書 (I)

平成 3 年度

1992年3月

鹿児島県教育委員会

序 文

北薩・伊佐・出水地区（一部日置を含む）の埋蔵文化財分布調査については、昭和36年度に、全県的な調査の一環として実施されています。

現在、この地区においては、西回り高速自動車道、九州新幹線鹿児島ルート建設をはじめ、農業基盤整備事業等の諸開発事業が計画されており、埋蔵文化財の保護と開発事業との調整を図るうえでより詳細な埋蔵文化財の分布状況の把握が必要となってきています。

このため、県教育委員会では、平成3年度から9年計画で同地区全域の埋蔵文化財分布調査を実施することとし、初年度は、串木野市、市来町、東市来町の1市2町について実施しました。

本書は、この分布調査の結果をとりまとめたものであり、この地区の埋蔵文化財の保護のために活用していただければ幸いです。

終わりに、この調査に御協力をいただいた関係市町教育委員会並びに関係者に心から感謝の意を表します。

平成4年3月

鹿児島県教育委員会

教育長 大 田 務

例 言

1. 本報告書は、平成3年度に実施した北薩・伊佐地区埋蔵文化財分布調査の報告書である。
2. 調査は、串木野市・日置郡市来町および東市来町を対象地区とし、田畑一筆ごとの悉皆調査を基本として行い、一部山林内の調査も行った。
3. 調査対象地区は、厳密には北薩・伊佐地区には属さないが、建設省九州地方建設局（鹿児島国道工事事務所）が事業主体となって行っている南九州西回り自動車道鹿児島道路（通称西回り高速自動車道）建設に係る予定地域の分布調査を含めて地区設定したものである。
4. 調査の組織は経過のなかで記した。
5. 本書の執筆・編集は次の通りである。
第Ⅰ章第1・2節，第Ⅱ章第1節……………倉元
第Ⅰ章第3節，第Ⅱ章第2・3節……………繁昌
6. 遺跡の写真は繁昌，遺物の実測，製図，写真撮影等は執筆者が分担して行った。
7. 本書で用いた遺物番号は，挿図・図版の番号と一致する。
8. 付図各市町遺跡分布図には，今回確認した遺跡を赤色で，周知の遺跡を黒色で区別して表現してある。周知の遺跡の中には従来ドットとして記されていたもので，今回遺跡の範囲を確認したものも含まれている。

目 次

	ページ
序 文	
例 言	
目 次	3
第 I 章 調査の経過	5
第 1 節 調査に至るまでの経過	5
第 2 節 調査の組織	5
第 3 節 調査の経過（日誌抄）	6
第 II 章 各市町管内の分布調査	8
第 1 節 串木野市管内の分布調査	8
第 2 節 市来町管内の分布調査	21
第 3 節 東市来町管内の分布調査	32
図 版	51
あとがき	

表 目 次

第 1 表 串木野市管内の遺跡一覧（1）	18
第 2 表 串木野市管内の遺跡一覧（2）	19
第 3 表 市来町管内の遺跡一覧	22
第 4 表 東市来町管内の遺跡一覧（1）	33
第 5 表 東市来町管内の遺跡一覧（2）	34

挿 図 目 次

第 1 図 串木野市管内の採集遺物（1）	10
第 2 図 串木野市管内の採集遺物（2）	12
第 3 図 串木野市管内の採集遺物（3）	14
第 4 図 串木野市管内の採集遺物（4）	15
第 5 図 串木野市管内の採集遺物（5）	16
第 6 図 串木野市管内の採集遺物（6）	17
第 7 図 市来町管内の採集遺物（1）	26
第 8 図 市来町管内の採集遺物（2）	29

第9図	市来町管内の採集遺物 (3)	31
第10図	市来町管内の採集遺物 (4)	31
第11図	東市来町管内の採集遺物 (1)	38
第12図	東市来町管内の採集遺物 (2)	41
第13図	東市来町管内の採集遺物 (3)	44
第14図	東市来町管内の採集遺物 (4)	46
第15図	東市来町管内の採集遺物 (5)	48
第16図	東市来町管内の採集遺物 (6)	49
第17図	東市来町管内の採集遺物 (7)	49

図 版 目 次

図版1	串木野市管内の遺跡遠景 (1)	51
図版2	串木野市管内の遺跡遠景 (2)	52
図版3	串木野市管内の採集遺物 (1)	53
図版4	串木野市管内の採集遺物 (2)	54
図版5	市来町管内の遺跡遠景 (1)	55
図版6	市来町管内の遺跡遠景 (2)	56
図版7	市来町管内の採集遺物 (1)	57
図版8	市来町管内の採集遺物 (2)	58
図版9	東市来町管内の遺跡遠景 (1)	59
図版10	東市来町管内の遺跡遠景 (2)	60
図版11	東市来町管内の遺跡遠景 (3)	61
図版12	東市来町管内の採集遺物 (1)	62
図版13	東市来町管内の採集遺物 (2)	63
図版14	東市来町管内の採集遺物 (3)	64

付 図

付図1	串木野市管内の遺跡	付図1
付図2	市来町・東市来町管内の遺跡	付図2

第1章 調査の経過

第1節 調査に至るまでの経過

鹿児島県教育委員会は、北薩・伊佐地区の4市13町4村（串木野市・阿久根市・出水市・大口市・東市来町・市来町・樋脇町・東郷町・鶴田町・宮之城町・薩摩町・祁答院町・里村・上甕村・鹿島村・下甕村・高尾野町・長島町・東町・野田町・菱刈町）について埋蔵文化財分布調査を平成3年度から11年度までの予定で計画した。

これは、北薩・伊佐地区の諸開発計画の施行に際して埋蔵文化財の保護と開発事業との調整のための資料を得ることを目的としたものである。

調査にあたっては、文化庁全国遺跡分布調査要項（昭和46年4月）に準拠し、埋蔵文化財を中心に原則として田畑一筆ごとの悉皆調査を行い、必要に応じてボーリング調査をするなど精密な分布調査を実施することとした。また、その結果について報告書・分布図を作成し、関係機関に配布する。

平成3年度は、串木野市・市来町・東市来町の1市2町を対象にして埋蔵文化財分布調査を実施し、新しい遺跡の発見に努めた。

第2節 調査の組織

調査主体者	鹿児島県教育委員会	教 育 長	大 田 務
調査責任者	鹿児島県教育庁文化課	課 長	向 山 勝 貞
調査企画担当者	〃	課 長 補 佐	濱 松 巖
	〃	主任文化財研究員 兼埋蔵文化財係長	吉 元 正 幸
調査担当者	〃	文化財研究員	繁 昌 正 幸
	〃	文化財研究員	倉 元 良 文
調査事務担当者	〃	主幹兼企画助成係長	濱 崎 琢 也
	〃	主 査	枇 杷 雄 二
	〃	主 査	下 園 勝 一
	〃	主 事	新屋敷 由美子

なお、調査にあたって串木野市・市来町・東市来町の各教育委員会及び鹿児島県日置教育事務所の協力を得た。また、各市町の文化財保護審議委員会には情報の提供を頂いた。

第3節 調査の経過（日誌抄）

調査の経過を、日誌抄により略述する。

- 5月7日 分布調査開始。借り上げ車の受け取り及び諸用具の運搬。市来町公民館へのプレハブ設置及び諸用具の搬入。日置教育事務所、市来町教育委員会（以下教委と略す）に協力依頼。川上貝塚、川上氏墓地等巡視。
- 8日 串木野市及び東市来町各教委へ協力依頼。冠岳、皆田・神之川・湯田方面巡視。北薩教育事務所・川内市歴史民俗資料館に挨拶。
- 9日 串木野市管内の分布調査開始。羽島北・羽島地区の調査。小野社会教育指導員（以下、社教指導員と略す）同行。
- 10日 串木野市羽島・荒川・平江・茅ヶ野地区の調査。小野社教指導員同行。
- 13日 串木野市平江・冠岳地区の調査。柳社教指導員同行。
- 14日 串木野市冠岳・生福・麓地区の調査。柳社教指導員同行。
- 15日 台風4号接近のため風雨強く、分布調査が不能なため、これまでに確認した遺跡の字名（遺跡名）の検索作業を、串木野市税務課の白石さんに依頼して行った。後、プレハブで図面整理及び調査の準備を行う。
- 16日 串木野市麓・中井原地区の調査。
- 17日 串木野市八房地区の調査。本日で串木野市管内の分布調査終了。字名検索作業。
- 20日 大雨洪水警報が発令され、分布調査が不能なため、市来町及び東市来町の分布調査の準備を行う。
- 21日 市来町管内の分布調査開始。湊町・久保野・観音ヶ池地区の調査。
- 22日 市来町久保野・内門・中ノ平地区の調査。午後、雨のため分布調査を中止し、永牧集落の黒曜石原産地を確かめに行く。吉嶺主事同行。
- 23日 市来町中福良地区の調査。重信城跡の位置が遺跡地図と異なることを確認した。
- 24日 市来町中原地区の調査。中諏訪・下諏訪遺跡の範囲が問題となる。
- 27日 市来町内門地区の調査。本日で市来町管内の分布調査が終了し、本日から東市来町管内の分布調査開始。桑木野地区。
- 28日 南九州西回り自動車道鹿児島道路（西回り高速自動車道）の伊集院IC～市来IC間の分布調査を、市来町側から開始する。市来町～東市来町美山間の調査。東市来町美山で、堂平窯跡の東側背後斜面に新たに窯跡と思われる遺構・遺物を確認した。鹿児島国道工事事務所船井さん同行。
- 29日 雨のため、西回り高速自動車道の調査を中止して、東市来町湯之元地区の調査を行う。昨日の補充調査をして、遺跡の範囲を確認するのが主な目的である。広範な台地全体に遺物が散布している場合の遺跡の範囲（エリア）及び遺跡名の付け方が問題となったが、一応、地形によって大まかに分けて取り上げておくことで決着した。

- 30日 西回り高速自動車道の調査。伊集院町～東市来町美山間。伊集院町川畑の南の小台地に五輪塔群があり、寺跡との伝承もあることから町の指定地とも考えられたが確認が必要。鹿児島国道工事事務所中原さん同行。本日で、西回り高速自動車道の調査は終了。東市来町美山の堂平窯跡の東側背後斜面の窯跡を、同町教委崎田社教課長と谷山文化財審議会委員長に確認してもらったところ、昭和52年度に標柱を立てた堂平窯跡とは別のものであることを確認し、堂平窯跡2号窯（仮称）と呼ぶことにした。
- 31日 東市来町高塚地区の調査。昼前に雨がひどくなり、分布調査は中止。串木野市下山に遺物採集及び客土の調査に行く。図面・遺物の整理・確認作業も行う。
- 6月3日 東市来町荻地区の調査。仮牧段遺跡の報告書により、同遺跡の範囲を確認しようとするが、詳細は不明。上二月田遺跡の範囲についても、同遺跡の報告書が町教委から貸し出し中で無かったため、確認できなかった。
- 4日 東市来町荻地区の調査。安楽係長同行。
- 5日 東市来町田代地区の調査。上園さん同行。
- 6日 東市来町田代・美山・養母地区の調査。浜崎さん同行。
- 10日 東市来町伊作田地区の調査。午前中、雨が急に襲い、調査はかどらず。
- 11日 東市来町上野・湯ノ元・美山地区の調査。原田B&G財団東市来海洋センター所長同行。本日で、東市来町管内の分布調査は終了。
- 12日 市来町管内の遺跡名を、町役場に行き字絵図で確認すると共に、堀之内社教課長に確認してもらう。同時に、町内の新確認及び周知の遺跡を地図に記入し、地名表を添えて、松崎教育長に提出した。東市来町管内の遺跡名検索作業。樋脇町上牛鼻の黒曜石原産地を確かめに行く。市来町永牧集落での産出の仕方とは異なっているものの、石質自体はほとんど変わらないようである。また、串木野市や市来町、東市来町の表採品とも、ほぼ同質であるように見える。
- 13日 東市来町管内の遺跡名を検索したものを町役場に持って行き、税務課で読み方を大字名と共に確認した。同一の字名は、混同を防ぐため、前に地名を付す必要がある。今夏、発掘調査を行う陣ヶ原について調査対象地を尋ねた結果、今回確認した桜迫・桜原遺跡は入っていないらしいことが判明したため、発掘調査時に何らかの確認が必要であることを伝える。鶴丸城跡付近の城跡の補充調査を行い、宅地造成が進んでいる様を目のあたりにする。
- 14日 プレハブ撤去、各市町教委・日置教育事務所に挨拶。収蔵庫に遺物・諸用具を搬入し、借り上げ車を返却。本日もって、分布調査を終了する。

6月15日から、重富収蔵庫にて整理作業及び報告書作成作業を行い、一部、県立埋蔵文化財センターで同作業を行った。

第2章 各市町管内の分布調査

第1節 串木野市管内の分布調査

串木野市の分布調査は、5月13日から同月17日まで実施した。

串木野市は薩摩半島の西岸に位置し、東西約19km・南北約11kmと東西に長く、羽島・荒川・冠岳・上名・下名の大字からなっている。北は川内市、東は薩摩郡樋脇町、南は八房川によって日置郡市来町、西は東シナ海と接している。市域の北部は旧期火成岩からなる八重山山塊に属する冠岳、平原山、弁財天山などからなる海拔500m前後の山々が連なり川内川と分水界をなし、これらの山地は金鉱を蔵する。南西部はシラス地帯と沖積地があるが、市域はほぼ安山岩質であり、山地部では溶結凝灰岩や安山岩の露出するところもある。樋脇町野下に源をもつ五反田川と荒川は沖積地を形成しながら海に注ぎ、これらの流域に農地が開ける。こうした沖積作用と北西の季節風で、南から続く吹上浜砂丘の末端を形成している。市街地は、五反田川の河口から大原台地にわたり、人口の多くが集中している。

市内の遺跡は、「鹿児島県市町村別遺跡地名表」によると、縄文時代の4遺跡が知られている。

今回の分布調査の結果、新たに30の遺跡を確認し、周知の遺跡で範囲を拡大したものが2遺跡あった。

1 萩元遺跡

串木野市羽島字萩元にあり、羽島の集落を見下ろす緩やかな斜面に位置する。標高約40mの南へ開けた扇状地の基部にあたる。

採集した遺物は、石核と古墳時代の土器片及び近世の陶器片である。

2 丸尾遺跡

串木野市羽島字丸尾にあり、南北に流れる萩元川の西側で台地の先端部に位置する。現況は畑として利用されているが、輝石安山岩の風化土で覆われている。

採集した遺物は1の黒曜石の残核・2の黒曜石のドリル・3の頁岩質の楔形石器のほかは黒曜石剥片である。

3 猪鼻（イノハナ）遺跡

串木野市羽島字猪鼻にあり、2本の川に挟まれた岬の南側へ開けた斜面に位置する。

採集した遺物は、4の砂岩の石錘・黒曜石剥片、近世の陶磁器片である。

4 一ノ渡瀬遺跡

串木野市荒川字一ノ渡瀬にあり、荒川を南に臨む台地の東側斜面に位置する。現況は、畑として利用されている。

採集した遺物は、古墳時代の土器小片である。

5 芝居ヶ段遺跡

串木野市荒川字芝居ヶ段にあり、一ノ渡瀬遺跡と荒川を挟んで100mの距離で対峙している西向きの緩やかな斜面である。

採集した遺物は、黒曜石の残核と剥片・近世の陶磁器片である。

6 木場の段遺跡

串木野市荒川字木場の段にあり、芝居ヶ段遺跡から南西へ200m、標高約60mに位置している。荒川に向かって八手状に張り出した台地の一つである。

採集した遺物は、5の黒曜石の石核と歴史時代と思われる土器片である。

7 中野遺跡

串木野市荒川字中野にあり、眼下に荒川に沿った水田地帯を臨む標高40m前後の南向き斜面で、東側には小川が流れる。

採集した遺物は、6の黒曜石のスクレーパーと黒曜石剥片である。

8 野下口遺跡

串木野市冠岳字野下口にあり、南に張り出した舌状台地の先端部に位置する。東側を五反田川に注ぐ小川が流れる。遺跡は、樋脇町と串木野市にまたがる。

採集した遺物は、石核・黒曜石剥片・古墳時代の土器片である。

9 藤ノ脇遺跡

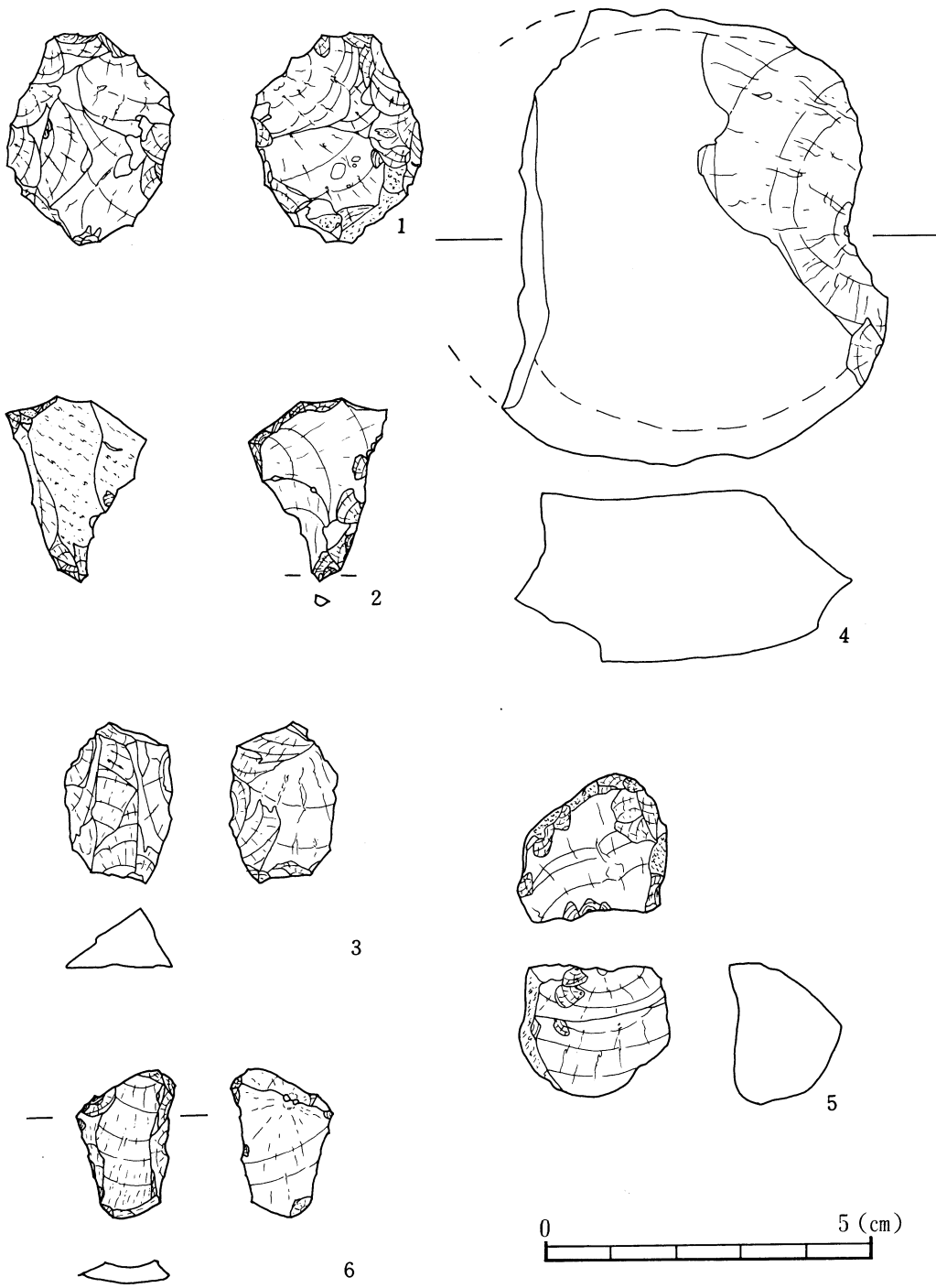
串木野市冠岳字藤ノ脇にあり、野下口遺跡から西へ約100mを測り、五反田川に張り出した台地の先端部に位置する。

採集した遺物は、黒曜石剥片である。

10 上虎遺跡

串木野市冠岳字上虎にあり、標高165mの小高い岡の頂上に位置する。現況は畑であるが、治山工事が行なわれ、地表にはシラスも混じる。

採集した遺物は、黒曜石剥片である。



第1図 串木野市管内の採集遺物(1)

11 前市野原遺跡

串木野市冠岳字前市野原にあり、三方を山に囲まれ東西に谷が入る台地上で、上虎遺跡から西へ約200mに位置する。

採集した遺物は、黒曜石・歴史時代の土器片・近世の陶器片である。

12 松野野遺跡

串木野市冠岳字松野野にあり、地方道串木野樋脇線より一段落ちた西側の標高100m前後の所に位置する。

採集した遺物は、黒曜石・歴史時代の土器片・近世の陶器片である。

13 久木之野遺跡

串木野市冠岳字久木之野にあり、南側に入りこんだ谷部の斜面に位置する。現況は畑として利用されているが、遺跡の南側部分は削平されてシラスが覗く。

採集した遺物は、黒曜石及び黒曜石の残核である。

14 丸田遺跡

串木野市冠岳字丸田・王子ノ段・小堀にあり、五反田川へ注ぐ大六野川と平行に西へ伸びる尾根筋に位置する。南はすぐに市来町との境で、現況は畑である。

採集した遺物は、黒曜石剥片である。

15 大六野遺跡

串木野市上名字大六野にあり、大六野川と五反田川に挟まれた台地上に位置し、北側は急崖となっている。現況は、畑と宅地が半々である。

採集した遺物は、7の黒曜石の石核・黒曜石剥片・歴史時代の土器片・近世の陶磁器片である。

16 芋野原（イモノハラ）遺跡

串木野市上名字芋野原・吉堀にあり、南北へ伸びる標高約80mの台地と標高約60mの一段低い台地に位置する。

採集した遺物は、歴史時代の土器片と近世の陶磁器片である。

17 八郎堀遺跡

串木野市上名字八郎堀にあり、五反田川と八房川に挟まれた台地の東端に位置する。現況は畑で、すでには場整備が行なわれている。

採集した遺物は、黒曜石の残核と剥片・近世の陶器片である。

18 休左衛門堀遺跡

串木野市上名字休左衛門堀にあり、八郎堀遺跡と同じ台地の南に張り出した先端部に位置する。現況は畑である。

採集した遺物は、8の縄文式土器の口縁部及び黒曜石剥片である。

19 兵左衛門堀遺跡

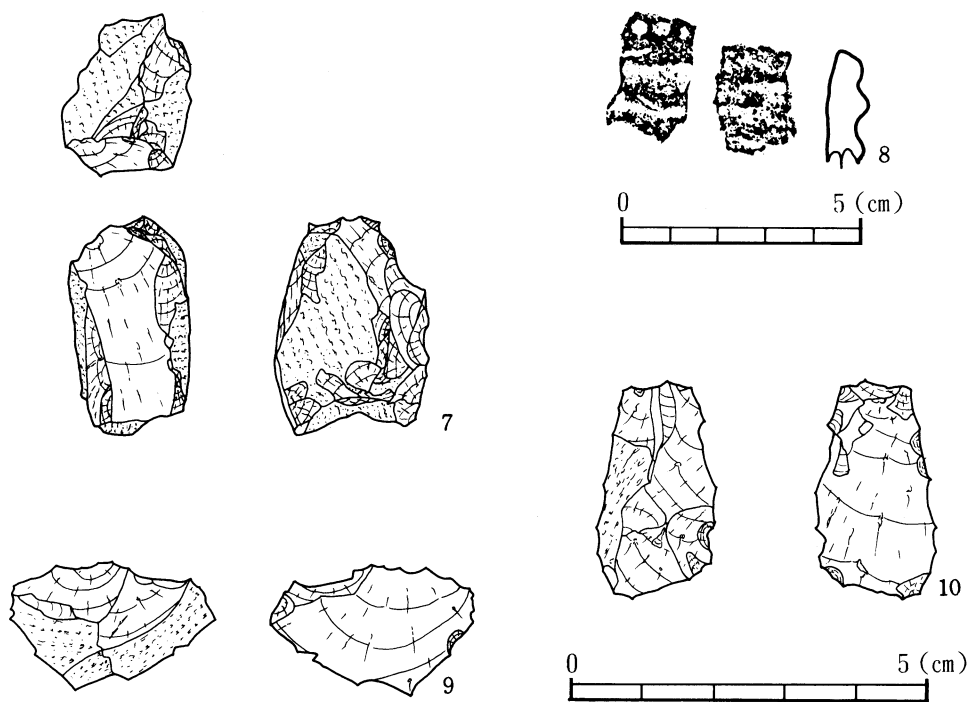
串木野市上名字兵左衛門堀にあり、五反田川と八房川に挟まれた台地の中央部に位置する。現況は畑として利用されているが、ほ場整備は終了している。

採集した遺物は、9・10の黒曜石剥片・歴史時代の土器片・近世の陶磁器片である。

20 金吹ヶ段遺跡

串木野市上名字金吹ヶ段にあり、標高70m前後の北向きの斜面に位置する。現況は畑として利用されている。

採集した遺物は、近世の陶磁器片である。



第2図 串木野市管内の採集遺物(2)

21 東中之藪遺跡

串木野市上名字東中之藪にあり、金吹ヶ段遺跡から南へ約150m、北側へ緩やかに傾斜する台地上に位置する。中央部付近に東から谷が入り込む。

採集した遺物は、時期不明の土器片・近世の陶器片である。また、近世の陶器片を利用したメンコを多く採集した。

22 寺堀B遺跡

串木野市上名字寺堀にあり、平成2年度に確認調査をした寺堀遺跡の道路を隔てた南側に位置する。南側は、八房川に向かって傾斜していく。

採集した遺物は、黒曜石・歴史時代の土器片・近世の陶磁器片である。

23 六目木遺跡

串木野市上名字六目木にあり、五反田川に張り出した舌状台地とその後背地に位置する。現況は畑だが、削平を多少受けている。

採集した遺物は、黒曜石の石核と剝片である。

24 平石原遺跡

串木野市上名字平石原にあり、標高60m前後の台地上に位置し、南側はすぐ地方道串木野樋脇線である。現況は畑であるが、すでは場整備が終わっている。

採集した遺物は、黒曜石剝片・近世の陶器片である。また、ここで地元の人が採集したと言う打製石斧は、図版4のAに示した。

25 向井原遺跡

串木野市上名字向井原・石原堀にあり、平石原遺跡から西へ200mの距離を置き、標高約50mの台地上に位置する。

採集した遺物は、歴史時代と思われる土器片である。

26 梶鼻遺跡

串木野市上名字梶鼻・豊留にあり、五反田川に向って迫り出した2つの舌状台地に位置し、間に浅く入り込んだ谷には小川が流れる。

採集した遺物は、黒曜石剝片・歴史時代の土器片・近世の陶器片である。

27 中野畑遺跡

串木野市下名字中野畑にあり、串木野西中学校の東側約300m、五反田川に向って緩やかに流れる南斜面に位置する。

採集した遺物は、黒曜石剥片・土師器片・近世の陶器片である。

28 幸新橋遺跡

串木野市下名字幸新橋にあり、中野畑遺跡から南へ約100m、同じ台地上の南端部に位置する。

採集した遺物は、縄文時代と思われる土器片である。

29 段ノ山遺跡

串木野市下名字段ノ山にあり、東シナ海を一望できる標高約30mの小高い岡を取り巻く一帯である。北端部分は、造成工事のため削平を受けている。

採集した遺物は、黒曜石・歴史時代の土器片・近世の陶磁器片である。

30 中海瀬（ナカケセ）遺跡

串木野市下名字中海瀬にあり、八房川を南に臨む斜面で市来町との境に位置する。市来町の川上貝塚とは八房川を挟んで東へ1kmの距離にある。

採集した遺物は、黒曜石の残核と剥片である。

31 並松（ナオンマツ）遺跡（周知遺跡～市町村別遺跡地名表5-2）

串木野市上名字並松にあり、五反田川と酔之尾川に挟まれた串木野中学校の東側の台地上に位置する。遺跡は昭和59年に発見されたが、今回の調査により点から面への広がりを確認した。

採集した遺物は、黒曜石・古墳時代の土器片・土師器片・中世の磁器片・近世の陶器片である。

32 節政（セツマサ）遺跡（周知遺跡～市町村別遺跡地名表5-3）

串木野市下名字節政にあり、五反田川を臨む南へ緩やかに傾斜する舌状台地に位置し、中央部に浅い谷が入り込んでいる。遺跡は昭和58年に発見されているが、今回の調査でその広がりを確認した。

採集した遺物は、黒曜石・古墳時代の土器片・須恵器片である。

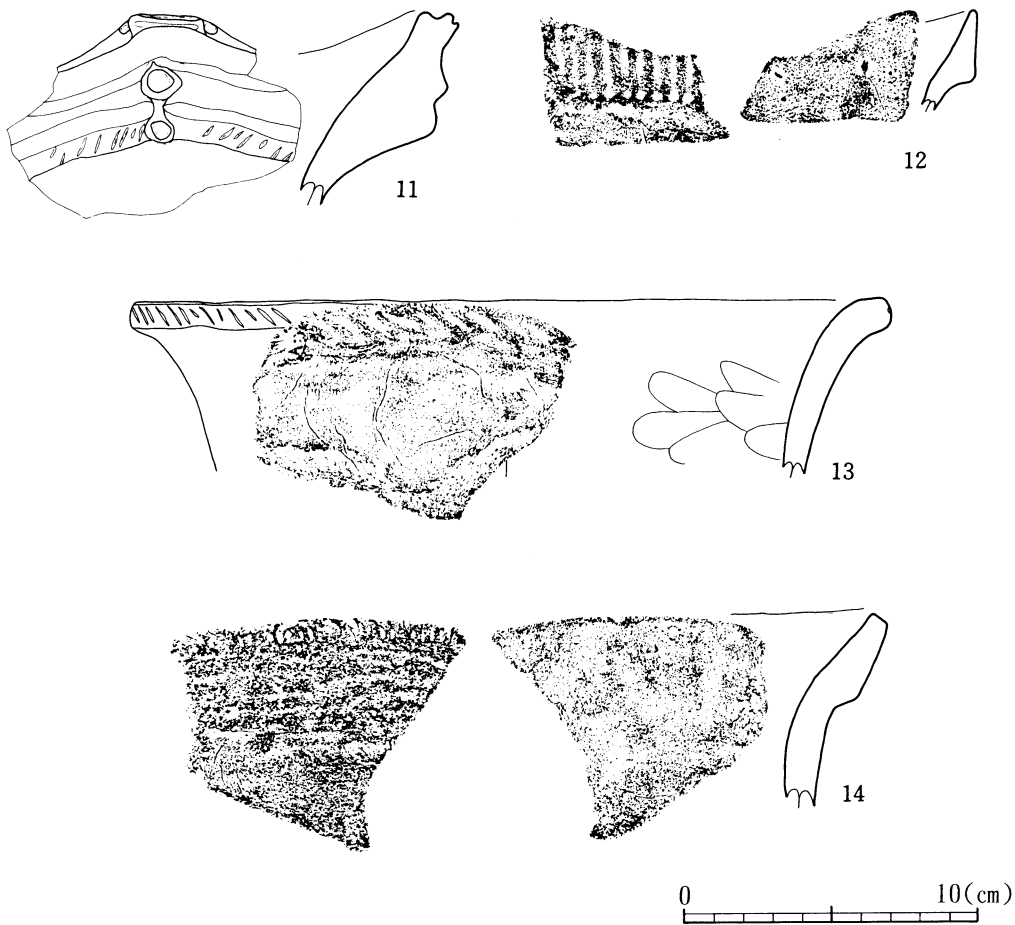
33 木場地区表採の遺物

串木野市羽島字木場で表面をシラスに覆われた畑において多くの縄文式土器を採集したが、付近にシラス層はなく、また地元の話では最近土を畑に入れたとのことであった。そこで関係者に土の搬入元を調べてもらったが、川内市寄田付近から搬入したらしいことだけはわかったがそれ以上のことは不明であった。採集場所については、分布付図に★で示した。

採集した遺物は、磨耗が激しくその文様や調整の不鮮明なものが多い。11は、口唇部に2条の沈線とその両端に刺突を施している。肥厚した口縁部には2つの刺突が縦に並び、2条の沈

線の下端に刻みがはいる。12は、2列の刺突の間に凹線を縦に施している。13は、外反した口唇部に刻みがはいる。14は、口唇部に刻みがはいる、肥厚した口縁部に貝殻状痕文を横位に施している。15・16は肥厚した口縁部に2条の沈線を持ち、15は沈線の下端に刻みがはいる。17・18は2つの貼り付けを廻らし、17は口唇部に、また18は2つの貼り付けに刻みを持つ。19～24は、口縁部に沈線及び凹線で文様を施し、22・23・24は口唇部に刻みを持ち、19・21は文様の上下に刻みを持つ。25は刺突と沈線で文様を構成し、口唇部に沈線をつけた粘土帯を貼りつけている。26は、かまぼこ型の口縁部に凹線がはいる。27は、3本の沈線の中に縄文が施されている。28は、縄文で文様を施した後沈線を入れ、間の縄文を磨り消している。29～32は、底部であるが、これも磨耗が激しい。33～40は、台付き皿の皿部と脚部である。34は、内面に沈線で弧文を描き、縄文を沈線間に施しているようにも見える。

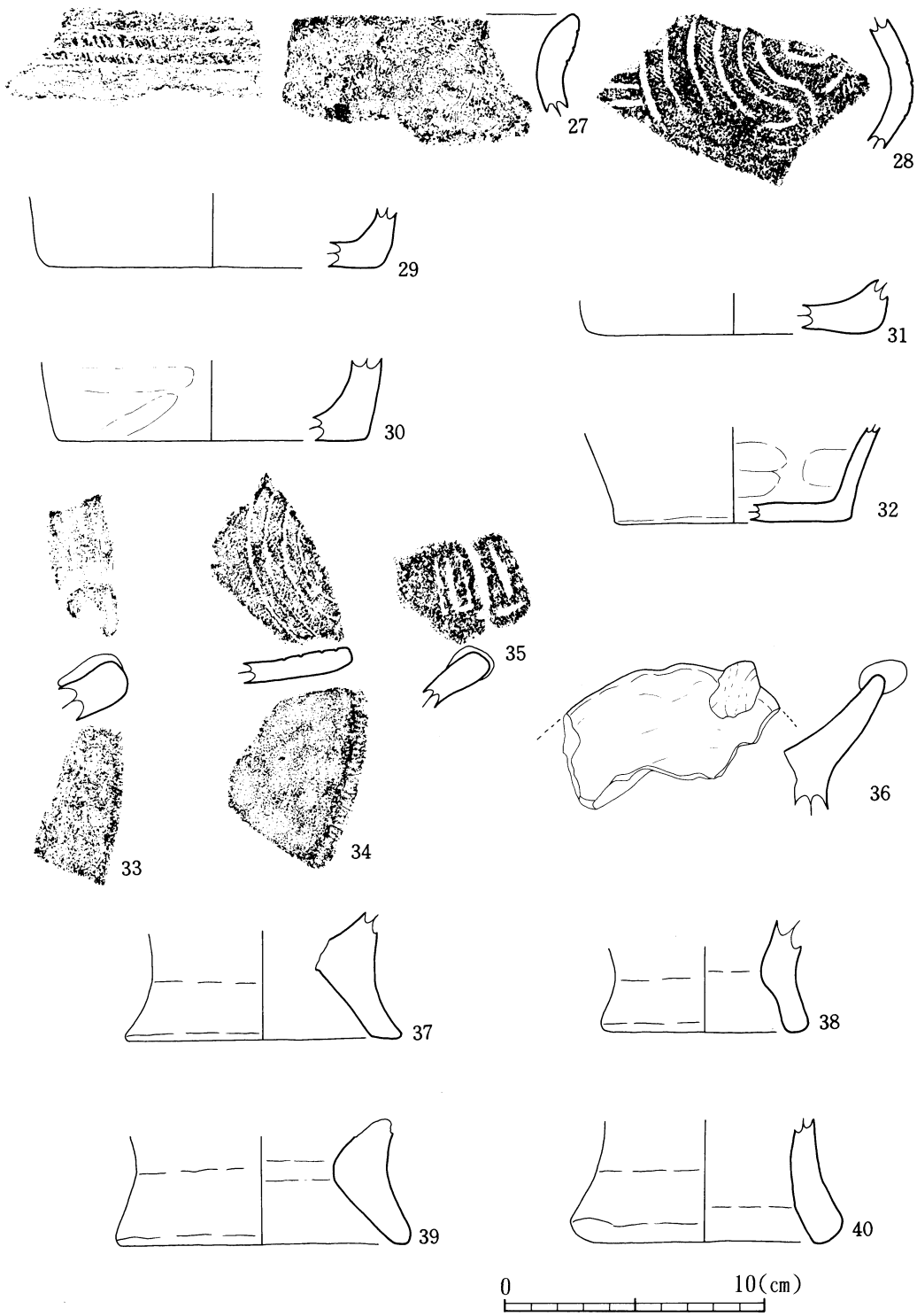
41は欠損した石皿、42～44は敲き石である。



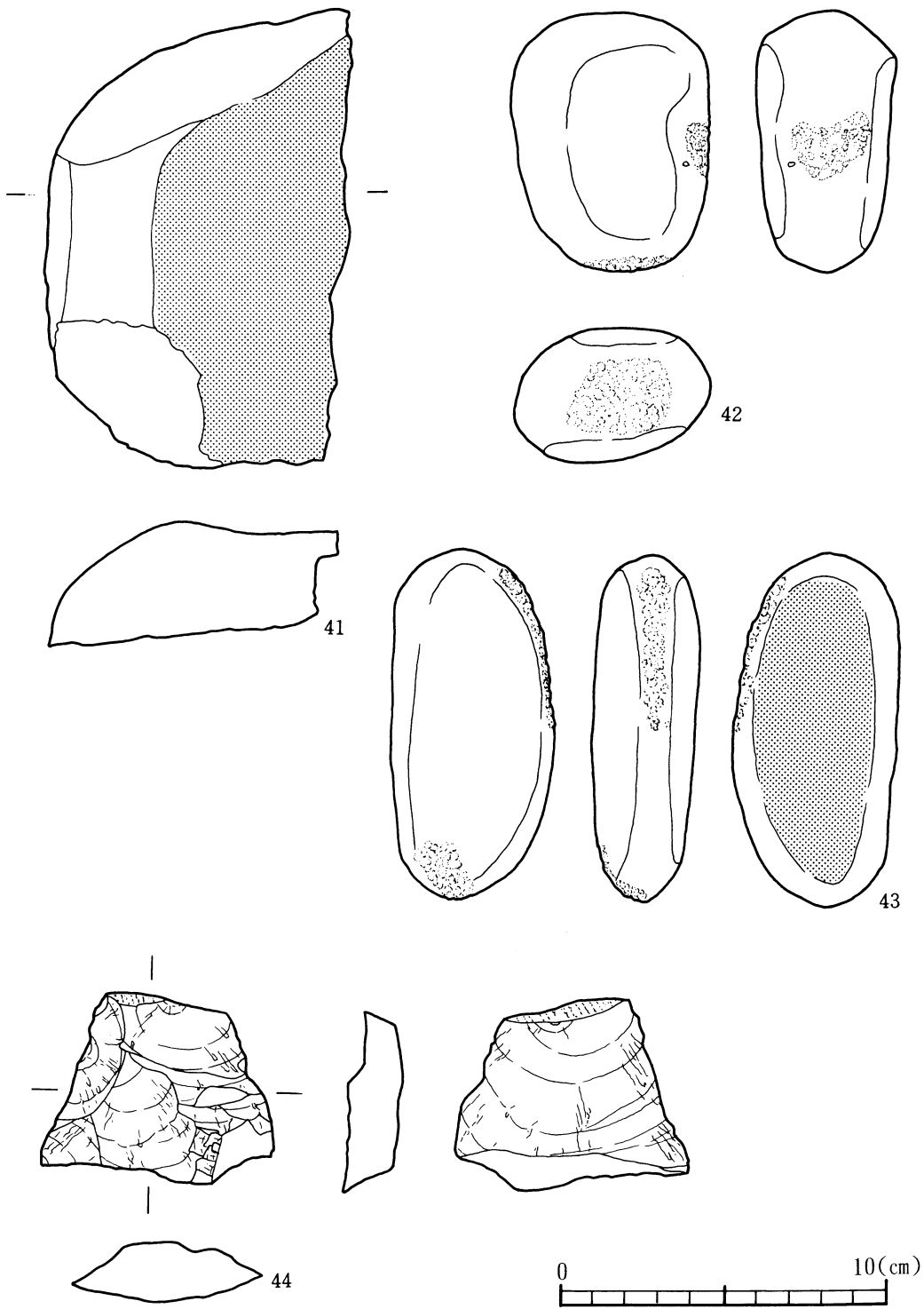
第3図 串木野市管内の採集遺物(3)



第4図 串木野市管内の採集遺物(4)



第5図 串木野市管内の採集遺物（5）



第6図 串木野市管内の採集遺物(6)

第1表 串木野市管内の遺跡一覧（1）

No.	遺跡名	所在地	時代	遺物	備考
1	萩元	串木野 大字羽島字萩元	縄文・近世	土器片・石核	
2	丸尾	〃 〃 字丸尾	縄文	残核・黒曜石剥片 ドリル・楔形石器	
3	猪鼻	〃 〃 字猪鼻	縄文・近世	石錘・黒曜石剥片	
4	一ノ渡瀬	〃 大字荒川字一ノ渡瀬	古墳	土器片	
5	芝居ヶ段	〃 〃 字芝居ヶ段	縄文	残核・黒曜石剥片	
6	木場の段	〃 〃 字木場の段	歴史	土器片	
7	中野	〃 〃 字中野	縄文	黒曜石剥片 スクレーパー	
8	野下口	〃 大字冠岳字野下口	縄文・古墳	石核・黒曜石剥片 土器片	
9	藤ノ脇	〃 〃 字藤ノ脇	縄文	黒曜石剥片	
10	上虎	〃 〃 字上虎	縄文	黒曜石剥片	
11	前市野原	〃 〃 字前市野原	縄文・歴史 近世	黒曜石・土器片	
12	松野野	〃 〃 字松野野	縄文・歴史 近世	黒曜石剥片・土器片	
13	久木之野	〃 〃 字久木之野	縄文	残核・黒曜石	
14	丸田	〃 〃 字丸田	縄文	黒曜石剥片	
15	大六野	〃 大字上名字大六野	縄文・歴史 近世	石核・黒曜石剥片 土器片	
16	芋野原	〃 〃 字芋野原	歴史・近世	土器片	
17	八郎堀	〃 〃 字八郎堀	縄文	残核・黒曜石剥片	
18	休左衛門堀	〃 〃 字休左衛門堀	縄文	黒曜石剥片 土器片（轟式）	
19	兵左衛門堀	〃 〃 字兵左衛門堀	縄文・歴史 近世	黒曜石剥片 土器片	
20	金吹ヶ段	〃 〃 字金吹ヶ段	近世	陶・磁器片	
21	東中之藪堀	〃 〃 字東中之藪堀	近世	陶器片	
22	寺堀 B	〃 〃 字寺堀	縄文・歴史 近世	黒曜石・土器片	
23	六目木	〃 〃 字六目木	縄文	石核・黒曜石剥片	
24	平石原	〃 〃 字平石原	縄文	黒曜石剥片	

串木野市管内の遺跡一覧（2）

No.	遺跡名	所在地	時代	遺物	備考
25	向井原	串木野市大字上名字向井原	縄文	土器片	
26	梶鼻	“ “ 字梶鼻	縄文・歴史 近世	黒曜石剥片・土器片	
27	中野畑	“ 大字下名字中野畑	縄文・歴史 近世	黒曜石剥片・土師器 土器片	
28	幸新橋	“ “ 字幸新橋	縄文	土器片	
29	中海瀬	“ “ 字中海瀬	縄文・歴史 近世	黒曜石・土器片	
30	段ノ山	“ “ 字段ノ山	縄文	残核・黒曜石剥片	
31	並松	“ 大字上名字並松	縄文・古墳 中世・近世	黒曜石・土器片 陶磁器片	5-2
32	節政	“ 大字下名字節政	縄文・古墳	土器片	5-3

注－備考欄の番号は、遺跡番号である。

引用・参考文献

- 鹿児島県教育委員会「鹿児島県埋蔵文化財調査報告書（36）鹿児島県市町村別遺跡地名表」1985年
 串木野市教育委員会「串木野市埋蔵文化財発掘調査報告書（1）寺堀遺跡」1991年
 串木野市教育委員会「串木野市郷土史」1984年
 市来町教育委員会「川上（市来）貝塚」1991年

第2節 市来町管内の分布調査

市来町の調査は、平成3年5月21日から5月27日まで実施した。

市来町は、薩摩半島のほぼ中央、吹上砂丘の北の付け根に位置し、北は串木野市、東と南は東市来町と境を接し、西は東シナ海に面している。地形は、町の4分の3を占める東側の山地及び台地と、残りの西側の平野とに大きく分けることができる。北側を、薩摩郡樋脇町に源を発する八房川が、川上にある防災目的の市来ダムによって水を一時せき止められた後で西流し、串木野市との境をなしており、南東側は、東市来町を水源とする大里川が大里のたんぼを潤しながらゆったりと流れ、中央を流れる観音ヶ池からの重信川の水流を得て東シナ海に砂洲を伸ばしつつ八房川と合流して大海に注いでいる。その大海への注ぎ口は古来からの良港となり、中国との貿易港としても発達し、藩政時代には川口番所も置かれる湊町として繁栄を極めた。

町内の遺跡は、昭和60年刊行の『鹿児島県市町村別遺跡地名表』によると、縄文時代1、弥生時代1、城跡5、寺跡（墓地群含む）3、江戸時代の諸遺跡4、観音像1が記載されている。市来町を有名にしたのは、市来貝塚の発見である。現在は小字名を冠せて川上（市来）貝塚としている。大正9年に有村榮助により確認され、山崎五十磨と共に発掘調査を行い、つぼ形、鉢形などの土器類、貝輪の完全品及び未完成品、貝類、石器・骨角器類、イノシシやシカなどの獣骨などが出土した。出土した土器のうち、初めて発見された形式の土器は市来式土器と命名され、南九州を中心とする縄文時代後期の示標となる形式の土器となったのである。次いで、昭和36年に、県文化財専門委員河口貞徳が本格的な発掘調査を行い、市来式土器・鐘ヶ崎式土器・指宿式土器・出水式土器などの縄文時代後期の土器を始め、石斧や特殊石器、貝類、貝製垂飾、骨製かんざし、同つりばり、同環が出土した。また、炉跡や焼土の遺構と、3体の人骨も検出された。また、平成2年には町の教育委員会が調査を行い、これまでの成果とほぼ同様な内容を確認した。弥生時代後期の遺跡には、打製石斧や土師器・須恵器が開墾によって出土した諏訪台地や磨製石斧や土器片が採集された上原台地、畑の開墾により石斧や土器を掘り出した大谷山北側斜面、打製石斧などの出土をみた北山屋敷、昭和44年の構造改善事業による団地造成で多数の土器が出たという才野ヶ原の小牟田、れんが用粘土採掘中に石斧と成川式の壺形土器を掘り出した大里（たんぼ）、ほぼ完全に近い須恵器の壺を発見した平ノ木場などの遺跡が知られていた。（『市来町郷土誌』昭和57年3月刊行）

今回の調査で30の遺跡が確認された。

1 久保野入角遺跡（クボノイリスミ・いせき）

市来町大字川上字久保野入角にあり、市来町の東南部で、市来ダムの南、久保野集落の東に位置する。遺跡は標高約190mの迫頭にある。

遺物は、古墳時代に当たる成川式土器と土師器片を採集したが、図化できるものはなかった。

2 銚ノ谷遺跡（ホコノタニ・いせき）

市来町大字川上字銚ノ谷にあり、市来町の東南端、東市来町と境界を接する福ヶ野集落の東

第3表 市来町管内の遺跡一覧

番号	遺跡名	所在地	地形	時代	遺物	備考
1	久保野入角	市来町川上久保野入角	迫頭	古墳・中世	土師器	
2	鉾ノ谷	〃 〃 鉾ノ谷	段丘	弥生・古墳	土器	
3	中ノ平	〃 〃 中ノ平跡	丘陵	弥生・古墳・近世	土器・陶器	
4	前平木場	〃 〃 前平木場	段丘	古墳・中世・近世	土器・土師器・陶器 磁器	
5	才野	〃 〃 才野跡	段丘	弥生・古墳	土器・土師器	
6	牛ノ江原	〃 〃 牛ノ江原跡	丘陵	古墳・中世・近世	土器・土師器・青磁 土錘	
7	安茶ヶ原	〃 〃 南安茶ヶ原中跡	台地	古墳・中世・近世	土器・土師器・青磁 陶器	
8	衆中小堀	〃 湊 衆中小堀	丘陵	中世・近世	土師器・陶器・青磁	
9	市堀	〃 〃 市堀	丘陵	古墳・中世・近世	土器・土師器・陶器 土錘	
10	北ノ原	〃 〃 北原	丘陵	古墳・中世	土師器・青磁・染付	
11	外戸	〃 〃 外戸跡	迫頭	弥生・中世・近世	土器・土師器・青磁 陶器	
12	外戸山口	〃 〃 外戸山口	段丘	弥生・古墳・中世	土器・土師器	
13	草り田平	〃 〃 草り田平	段丘	中世・近世	土師器・陶器	
14	小原	〃 〃 小原	段丘	弥生	土器	
15	鳩越	〃 大里鳩越	丘陵	古墳・近世	土器・陶器	
16	松尾平	〃 〃 松尾平	丘陵	古墳・中世・近世	土器・土師器・陶器	
17	池原前	〃 〃 池原前跡	丘陵	古墳・中世・近世	土器・土師器・陶器	
18	原ノ園原	〃 〃 原ノ園原跡	台地	弥生・古墳・中世 近世	土器・土師器・陶器	
19	中尾東原	〃 〃 中尾東原跡	台地	中世・近世	土師器・青磁・染付 陶器	
20	佐保井東原	〃 〃 佐保井東原跡	台地	中世	土師器・青磁	
21	妙見前	〃 〃 妙見前跡	台地	古墳・中世・近世	土師器・青磁・陶器	
22	東園	〃 〃 東園跡	台地	古墳・中世・近世	土器・土師器・陶器	
23	西ノ鼻	〃 〃 西ノ鼻跡	台地	古墳・中世・近世	土器・土師器・陶器	
24	半崎堀	〃 〃 半崎堀跡	台地	弥生・古墳・中世 近世	土器・土師器・陶器	
25	上平山	〃 〃 上平山	段丘	弥生・古墳	土器	
26	田中堀	〃 〃 田中堀跡	段丘	縄文・弥生・古墳 中世・近世	土器・土師器・陶器	
27	崎野堀	〃 〃 崎野堀跡	丘陵	弥生・古墳・中世 近世	土器・土師器・白磁 染付・陶器	
28	深田前迫	〃 〃 深田前迫跡	丘陵	古墳・中世・近世	土器・土師器・陶器 磁器	
29	戸崎平	〃 〃 戸崎平跡	丘陵	中世	土師器・土錘	
30	戸崎原	〃 〃 戸崎原跡	段丘	古墳・中世・近世	土器・土師器・陶器 土錘	

側に位置する。遺跡は集落の東、段丘上にあり、久保野入角遺跡とは山一つ隔てているが、小径ながら直接山道でつながっている。標高約180mで、段々畑が作られている。

遺物は、弥生式土器、成川式土器、陶器片を採集した。45は陶器製円板（通称メンコ）である。1.5cm×1.2cmの楕円形状である。時代は近世であろう。

3 中ノ平遺跡（ナカノヒラ・いせき）

市来町大字川上字中ノ平ほかにあり、市来町の中央部やや北寄りの標高約100mの丘陵に位置する。遺跡は中ノ平後集落の北側斜面に広がっており、北山屋敷遺跡とは同じ丘陵であるが、尾根違いで北西方面に延びている。

遺物は、弥生式土器、成川式土器、土師器、近世陶器片を採集した。46は低い高台の付いた土師器の壺と思われ、胎土・焼成共に良好である。

4 前平木場遺跡（マエヒラコバ・いせき）

市来町大字川上字前平木場にあり、市来町の中央北端、串木野市と境界を接する平木場集落に位置する。遺跡は集落のほぼ中央の段丘上にあり、標高約120mで、南側へゆるやかに傾斜している。

遺物は、成川式土器、土師器、陶器、磁器片を採集した。47は染付の碗と思われ、内外面にひび釉が見られる。中世か近世か、にわかには判断できない。

5 才野遺跡（サイノ・いせき）

市来町大字川上字才野ほかにあり、市来町の中央部、標高約130mの段丘上に位置する。遺跡は才野ヶ原集落にある小牟田遺跡とは迫一つ隔てており、川上地域の農業用水の水がめとなっている珍ノ山池を見下ろす位置にあり、才野ヶ原配水池に隣接している。

遺物は、弥生式土器、成川式土器を採集した。111は頁岩製の石匙で、刃部が一部欠損する。

6 牛ノ江原遺跡（ウシノエバラ・いせき）

市来町大字川上字牛ノ江原ほかにあり、市来町の西部北寄りの丘陵に位置し、北側は小水田と八房川を隔てて串木野市と接する。遺跡は牛ノ江集落の南後方、標高約40mの低平な台地にあり、牛ノ江配水池に隣接している。中組にある川上貝塚（市来貝塚）とは同じ丘陵の尾根違いであり、距離はわずかに800mほどである。地名が牛ノ江であることから、川上貝塚が形成された縄文時代後期ごろは、この近辺まで入江が入り込んでいたことも考えられ、興味深い。

遺物は、成川式土器、土師器、青磁片、土錘を採集した。49と50は土師器の壺の底部と思われ、48は白磁の碗で、いわゆる口ハゲの口縁部である。51は人工遺物であることは確かであるが、用途等は不明である。

7 安茶ヶ原遺跡（アンチャガハラ・いせき）

市来町大字川上字南安茶ヶ原中ほかにあり、市来町の西部北端、串木野市と八房川を隔てて接する安茶集落の東後方の台地に位置し、標高約20mである。遺跡は北東部へ突き出した楕円形の台地全体に及ぶ広大な面積をもつものと思われるが、小規模な圃場整備が行われているようである。牛ノ江遺跡とは、太古の昔、入江であったであろう現在の水田をはさんでも約500m

と至近の距離にあり、南側の**衆中小堀遺跡**とは道路で隔てられた本来同一の台地であったと思われる。

遺物は、成川式土器、土師器、青磁、陶器片を採集した。52は染付の碗の口縁部、54は青磁碗の底部で、高台の畳付の部分にも釉がかかっている。53は口ハゲの白磁碗の口縁部である。以上3点は何れも中世のものと考えられる。55～48は陶器製円板である。

8 衆中小堀遺跡 (シュウチュウコボイ・いせき)

市来町大字湊字衆中小堀にあり、**安茶ヶ原遺跡**とは道路を隔てて南側に位置する。遺跡は標高約20mの丘陵にあるが、ここから安茶ヶ原の広大な台地に繋がっている。

遺物は、土師器、陶器、磁器片を採集した。59は陶器製円板で、長径4.0cm、短径3.2cmを測り、内面に沈線が見られることから摺り鉢を転用したものと思われる。

9 市堀遺跡 (イチボリ・いせき)

市来町大字湊字市堀にあり、**衆中小堀遺跡**とは比高差約20mの尾根とその南の迫を隔てた丘陵上に位置する。遺跡は標高約50mで、迫集落の東後方になる。また、同じ丘陵の延長上東側約100mには**北ン原遺跡**がある。

遺物は、成川式土器、土師器、陶器片、土錘を採集した。

10 北ン原遺跡 (キタンハイ・いせき)

市来町大字湊字北原にあり、標高約50mで、**市堀遺跡**とは同じ丘陵上に位置する。遺跡は割合に広大で、高低差が少なく、ほぼ平坦であるが、東及び西は小さな迫があり、北側は割合に急な傾斜をもっており、やや独立した遺跡といえるかも知れない。

遺物は、成川式土器、土師器、青磁、白磁、染付片を採集した。60は青磁、61は白磁の碗のいずれも口縁部であり、60はやや褐釉がかかっている。62は白磁碗の底部で、外面には釉だれが見られ、内面は高台付の部分から幅約1.5cmにわたって釉を掻き取ってある。63は陶器製円板で、暗茶褐色の釉が両面にかかったカメを転用したものと思われる。

11 外戸遺跡 (ケド・いせき)

市来町大字湊字外戸ほかにあり、標高約50mほどの迫頭に位置する。遺跡は外戸集落に取り囲まれるようにしてあり、緩やかに傾斜した畑となっている。

遺物は弥生式土器、土師器、青磁、陶器片を採集した。

12 外戸山口遺跡 (ケドヤマグチ・いせき)

市来町大字湊字外戸山口にあり、標高は約10mの段丘である。遺跡は、外戸集落の南西、外戸橋を真近かに見下ろす位置にある。**外戸遺跡**とは尾根を隔てた南西にあり、非常に緩やかな畑地となっており、水田との比高差も小さい。

遺物は、弥生式土器、成川式土器、土師器片を採集した。64は陶器製円板である。

13 草り田平遺跡 (ゾウリデンビラ・いせき)

市来町大字湊字草り田平にあり、市来農芸高校を見下ろす段丘上に位置し、標高20～40mの割合に傾斜のきついところである。**外戸遺跡**とは同じ尾根に当り、その先端ということになる。

遺物は、土師器、陶器片を採集した。

14 小原遺跡 (コバイ・いせき)

市来町大字湊字小原にあり、湊町市街地の西南端、標高10m程度の砂丘性の小段丘に位置する。遺跡はその段丘の頂部にある墓地の南側斜面に当る。

遺物は、弥生式土器片を採集した。

15 鳩越遺跡 (ハトゴエ・いせき)

市来町大字大里字鳩越にあり、標高約170mの丘陵で、東市来町と境を接する場所に位置する。遺跡は東市来町側から西側に向けて張り出した広大な丘陵の頂部平坦面で、西側に向けて緩傾斜で下る。広域農道から若干入った、現況茶畑のところが多いが、西側先端部にかけて道路や果樹園(柑橘類)が延びて来ている。

遺物は、成川式土器、陶器片を採集した。65は染付の碗の口縁部であるが、外面の文様は不明である。内面口縁に2条の線が走っている。

16 松尾平遺跡 (マツオビラ・いせき)

市来町大字大里字松尾平にあり、宇都集落の北方約200mの小丘陵に位置する。遺跡は標高約20mとそれほど高くはないが、傾斜は割合に急である。

遺物は、成川式土器、土師器、陶器片を採集した。

17 池原前遺跡 (イケンハイマエ・いせき)

市来町大字大里字池原前ほかにあり、池ノ原集落前の丘陵上に位置する。遺跡は標高約120mの丘陵のほぼ全体に広がっており、傾斜もなだらかである。

遺物は、成川式土器、土師器、陶器片を採集した。

18 原ノ園原遺跡 (ハラノソノバイ・いせき)

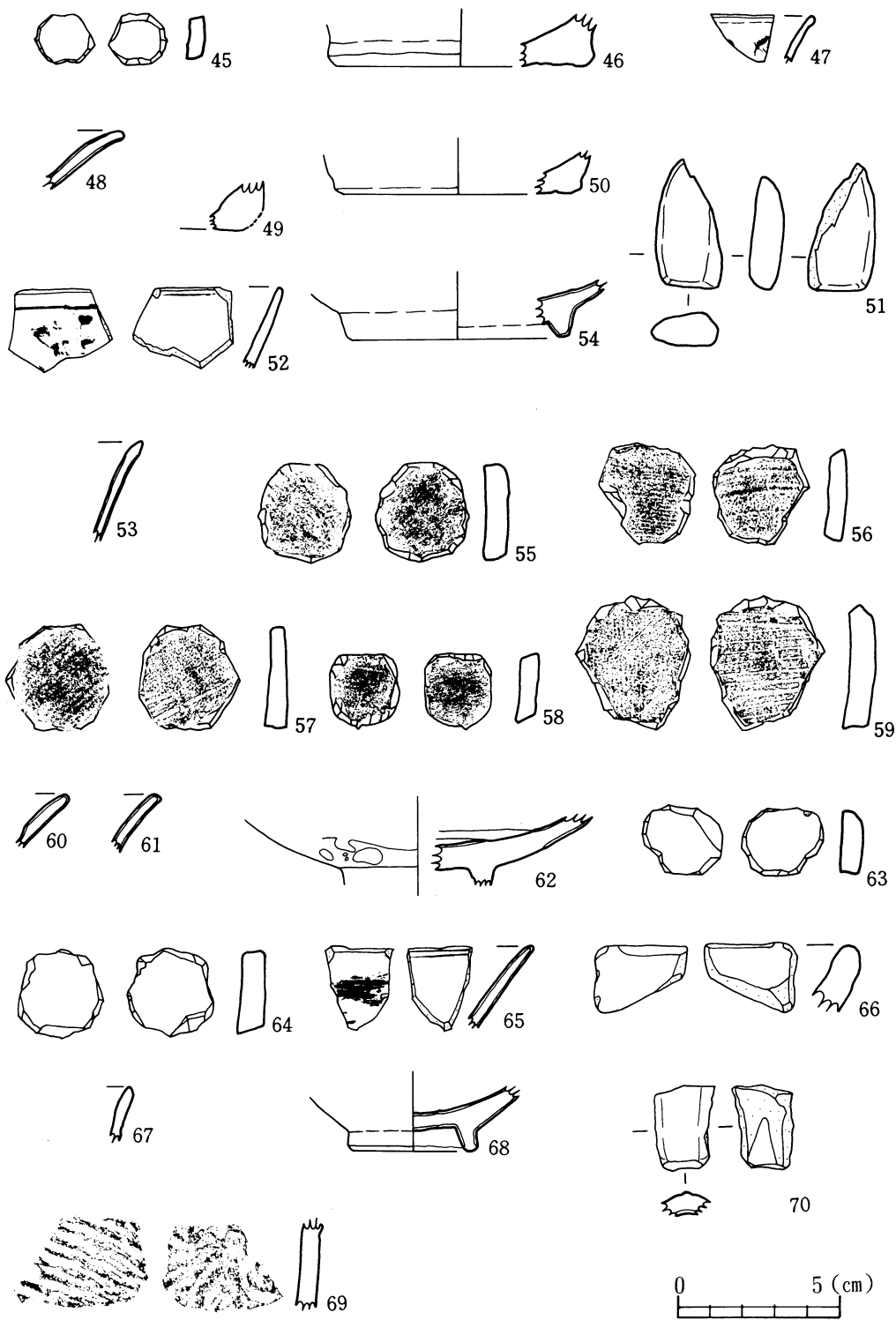
市来町大字大里字原ノ園原ほかに有り、中福良集落を擁する上城跡とは迫を隔ててすぐ北に位置する。国道3号線の東側の小台地は、南端の鍋ヶ城跡から重信城跡に至るまで、ほとんど遺跡であり、中世の城館跡や弥生～古墳時代の遺物・遺構が眠っているものと思われる。遺跡は、南側から3番目の小台地に立地し、標高約30mで、ほとんど平らである。四方を迫または野首状の尾根で隔てられており、独立した小遺跡といえる。

遺物は、弥生式土器、成川式土器、土師器、陶器片を採集した。66は土師器の甕の口縁部と思われる、67は青磁碗の口縁部、68は白磁と思われる碗の底部であり、何れも中世～近世にかけてのものと考えられる。69は須恵器の甕の胴部、70は管状土錘である。

19 中尾東原遺跡 (ナカオヒガシバル・いせき)

市来町大字大里字中尾東原ほかにあり、原ノ園原遺跡の北西部、本来同じ台地であろうが、野首状の尾根で隔てられた台地に位置する。遺跡は下手中集落の上の台地にあり、標高約30mである。西側には大里川が北流している。

遺物は、土師器、染付、青磁、陶器片を採集した。71は染付碗の口縁部で、内外面の口縁上部に1条の線が廻る。72は青磁碗の口縁部かと思われる、外面口縁部に細く隆起状に線が廻る。



第7図 市来町管内の採集遺物(1)

20 佐保井東原遺跡 (サボイヒガシバル・いせき)

市来町大字大里字佐保井東原ほかにあり、**中尾東原遺跡**とは迫を隔てたすぐ北側にあり、**重信城跡**とは、間に台地を隔てて約400mの距離にある。遺跡は標高約20mの台地上にあり、ほぼ平坦である。

遺物は、土師器、青磁片を採集した。73は土師器の甕の口縁部と思われ、口唇部が肥厚している。75は、土師器の皿の底部であるが、糸切りなのかへら削りなのかは磨耗しているため不明である。74は青磁碗の口縁部で、外面にヒビ釉が見られる。

21 妙見前遺跡 (ミョウケンマエ・いせき)

川上町大字大里字妙見前ほかにあり、**上原遺跡**とは迫を隔てた約200m南西の台地に位置する。遺跡は標高約60mのなだらかな台地であり、**来迎寺墓塔群**はこの台地の北端に所在する。市来町の南西部に当り、東側の迫向いは東市来町であり、**東園遺跡**から**西ノ鼻遺跡**、**半崎堀遺跡**までを含めて、湯ノ元台地から延びた一連の台地といえよう。東の端に神社がある。

遺物は、成川式土器、土師器、青磁、陶器片を採集した。76は成川式土器・壺形土器の頸部と思われ、77は摺り鉢を転用した陶器製円板である。

22 東園遺跡 (ヒガシゾノ・いせき)

川上町大字大里字東園ほかにあり、**妙見前遺跡**とは小さな迫を隔てた隣接する台地に位置する。遺跡は標高約60m、割合に広大な台地で、ほとんど平らである。遺跡の南側は狭い水田となっており、**中原治水溝**が廻っている。

遺物は、成川式土器、土師器、陶器片を採集した。79と80は何れも土師器であるが、前者は碗、後者は皿の底部であろう。78は口唇部が鋭く外反する白磁碗の端反りの口縁部である。

23 西ノ鼻遺跡 (ニシノハナ・いせき)

市来町大字大里字西ノ鼻ほかにあり、**東園遺跡**の南西、開墾時に石斧や土器片が出土したことにより発見された**中諏訪**、**下諏訪両遺跡**とは同じ台地の道路を挟んだ北側に位置する。したがって、本来は**中諏訪**、**下諏訪両遺跡**を含めて一つの遺跡とすることが望ましいのだが、**両諏訪遺跡**が小丘陵であるという立地的条件と、一つにまとめた際に生じる種々の混乱を避けるため、敢えて別の遺跡名とした。遺跡は中原集落を取り囲むように広がっている。

遺物は、成川式土器、土師器、陶器片を採集した。81～83は何れも土師器の碗の底部でありやや高い高台が廻る。81は内黒土師器と呼ばれるものである。

24 半崎堀遺跡 (ハンザッポイ・いせき)

市来町大字大里字半崎堀ほかにあり、**西ノ鼻遺跡**のほぼ中央の中原集落の中心部から北西に延びた台地である。遺跡はこの台地全体に及び、ほとんど傾斜はない。北端の下方には広域果樹選果場ができています。

遺物は、弥生式土器、成川式土器、土師器、陶器を採集した。

25 上平山遺跡 (カミヒラヤマ・いせき)

市来町大字大里字上平山にあり、市来町の南東部、大里の広い水田を見下ろす南側の段丘に

位置する。本遺跡に始まって**田中堀遺跡**から**深田前迫遺跡**などを経て**戸崎原遺跡**までの6遺跡は、丸塚山及び東方の小山の北半の裾野を廻る位置に並んでいるといえる。遺跡は堀集落の中でも南東部に少し離れた小集落の中にあり、東に向いてなだらかな傾斜をもっている。

遺物は、弥生式土器と成川式土器を採集した。

26 田中堀遺跡 (タナカボイ・いせき)

川上町大字大里字田中堀ほかにあり、堀集落のうち北側の集落全体にまたがる広大な段丘上に位置する。遺跡は山の裾野を廻るようになり、標高約30～40mの緩傾斜をもつ。現在焼酎工場があることからわかるように、清冽な泉が湧いている水の豊庫といえる地域である。

遺物は、縄文式土器(時期不詳)、弥生式土器、成川式土器、土師器、陶器片を採集した。また、道路工事中に、土器(おそらく成川式土器)が出土したことも聞いた。**84**は成川式土器の甕形土器の底部である。脚台は欠損し、磨耗も激しい。

27 崎野堀遺跡 (サキノボリ・いせき)

川上町大字大里字崎野堀ほかにあり、崎野集落を見下ろす標高約30mの小丘陵に位置する。**田中堀遺跡**とは道路1つ隔てており、北東部には迫が入り込んでいる。ほぼ平坦で、畑地となっている。

遺物は、弥生式土器、成川式土器、土師器、白磁、染付、陶器片を採集した。**85・86**は土師器の皿の口縁部、**89**は同じく碗の底部で糸切り底である。**87**は端反りの口縁部をもつ白磁の碗、**88**は褐釉がかかった青磁碗の口縁部、**90**は甕の胴部を転用したと思われる陶器製円板である。

28 深田前迫遺跡 (フカダマエサコ・いせき)

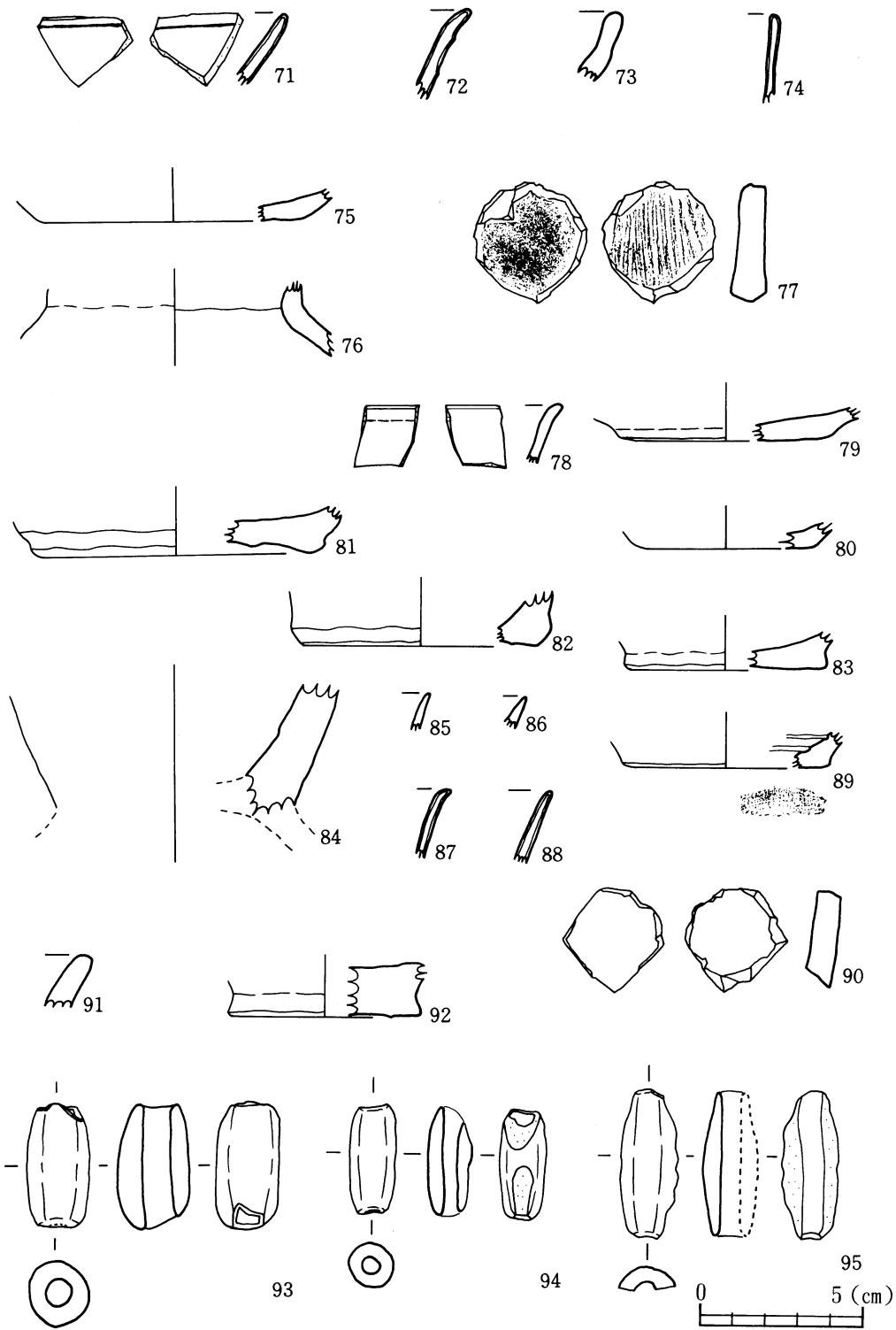
市来町大字大里字深田前迫ほかにあり、**崎野堀遺跡**とは水田化している迫1つ隔てて約100m南側に位置する。遺跡は東西に細長い丘陵上にあり、南側も水田である。東から西にかけて緩やかに下っており、畑地となっている。標高は約20～30mである。

遺物は、成川式土器、土師器、陶器、磁器を採集した。**91**は成川式土器の甕形土器の口縁部、**92**は土師器の碗の底部と思われる、脚部と体部の境を丸くなくて仕上げている。

29 戸崎平遺跡 (トサツピラ・いせき)

市来町大字大里字戸崎平ほかにあり、**深田前迫遺跡**とは国道270号線をはさんで西側に位置し、同遺跡の丘陵とは同じ尾根である。遺跡は標高約10～20mで、西側(海岸部)にかけて緩やかに下っているが、端部は小砂丘と繋がっている。

遺物は、土師器と土錘を採集した。土錘は一昔前まで素焼きの管状土錘を使っており、網が破れたり、耐用年数の過ぎたものを土錘が付いたまま畑の中に埋め込んで網を腐らせ、それを肥料がわりにしたということを住民から聞いたので、畑で採集した管状土錘は新しいものである可能性があるわけであるが、胎土中の鉱物や焼成、磨耗の状態などから新しくても近世までは遡ると思われるもののみを図化した。同時に採集した土師器で図化できるものがあれば良かったのであるが、残念ながら見当らなかった。しかし、何れにしても中世の土師器があることから遺跡であることは事実である。**93**は、近世以前の管状土錘と考えられる。



第8図 市来町管内の採集遺物(2)

30 戸崎原遺跡 (トサツバイ・いせき)

市来町大字大里字戸崎原ほかにあり、漁業を生業とする戸崎集落の北側後方の西側へ緩やかに傾斜した段丘に位置する。遺跡は丸塚山の西麓から標高約10~20mほどの段丘の中央部分である。ここには中国野菜などを栽培する畑が広がっている。

遺物は、成川式土器、土師器、陶器に加え、管状土錘を大量に採集した。94・95は共に素焼きの管状土錘である。前者はやや小型で、胎土に角閃石や石英などを多量に含み、表面は滑らかに磨いてある。後者はやや大型で赤褐色を呈し、角閃石など胎土中の鉱物が非常に少ない。表面は滑らかに整形してある。管状土錘の最近のものは、赤色に近く、胴部の膨らみが弱く寸胴形に近く、胎土も精選されており、長さも均一である。また、化学製品も増加している。

以上のほかに、今回の調査で周知の遺跡も回り、遺跡の範囲(城跡については縄張り)の確認を行った。その際に採集した主な遺物についても若干の説明を加えておきたい。(第9図)

川上貝塚 (カワカミ・かいづか) [市来貝塚(イチキ・かいづか)との呼称もある]

96は縄文時代後期の松山式土器の鉢型土器の口縁部で、口唇部外面に3条の沈線が廻る。97は形式不明であるが、同じく深鉢の口縁部であろう。98は深鉢の胴部を転用したと思われる土器製円板(通称メンコ)で、径約5cmと割合に大きい。99・100は土師器の皿の底部で、糸切り底と思われる。

上城跡 (ウエンジョウアト・しろあと)

中福良集落の北側にある広大な台地全てであり、南東には鍋ヶ城跡がある。

101は土師器の皿の口縁部と思われ、102は土師器碗の底部である。底はヘラ削りと推定される。

鍋ヶ城跡 (ナベガジョウアト・しろあと)

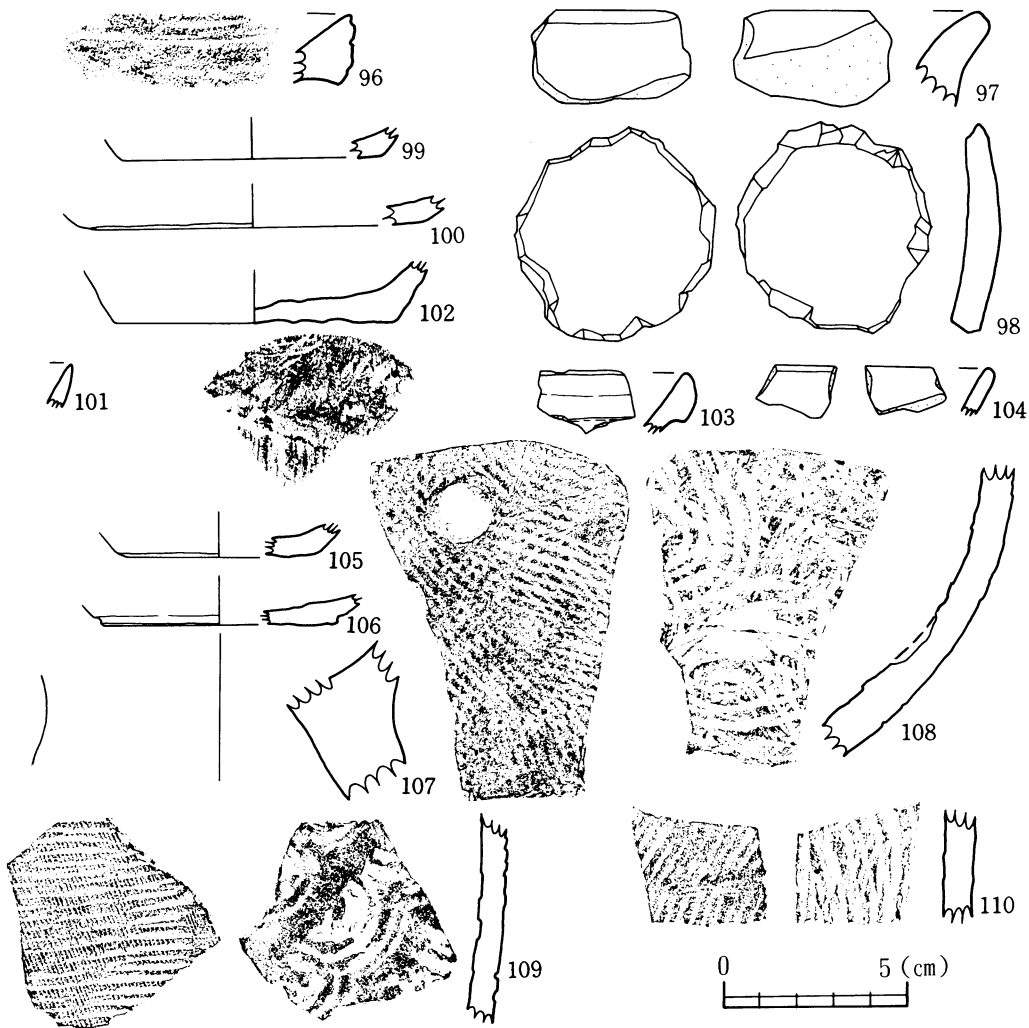
上城跡の南東部にあり、市来町では最も東にある城跡である。広大な台地は、北東部がやや小高くなっており、残存状況は極めて良好と思われる。北東約200mには金鐘寺跡がある。

103は玉縁口縁をもつ白磁の碗、104は土師器の碗の口縁部であるが、内外面共に黒色をしている。105・106は共に土師器の皿の底部である。112は黒曜石の石鏃で、ほぼ完形である。

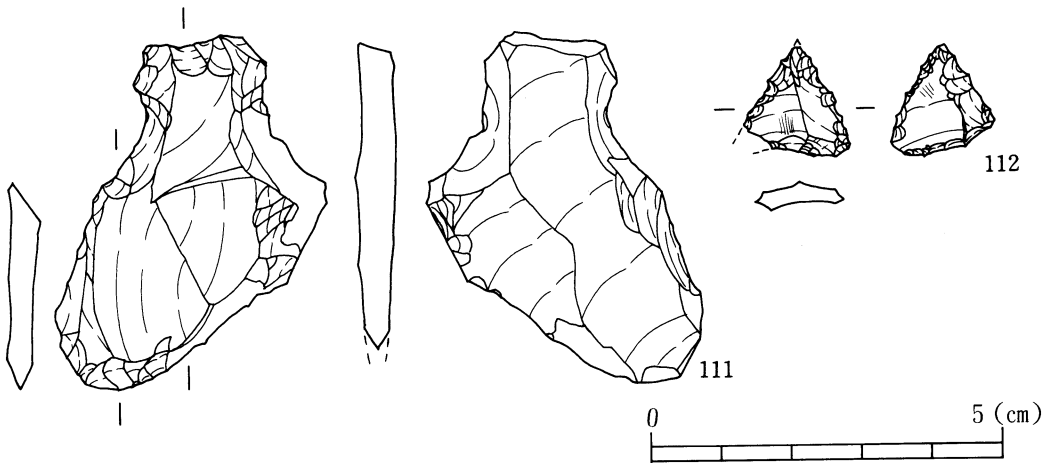
重信城跡 (シゲノブジョウアト・しろあと)

JR鹿兒島本線市来駅の東にある標高30m程度で小じんまりとした城跡である。狭い頂部は蜜柑が植えられており、木の植え替えなどによる穴掘りのためか、遺物が相当多量に顔をのぞかせていた。古墳時代相当と思われる須恵器が多かったことを考えると、相当深くまで掘り起こされていると思われ、憂慮すべき事態と言えるかも知れない。

107は成川式土器の甕形土器の底部で、脚部と体部の取り付け部であり、脚部は相当に高いものと思われる。108~110は須恵器である。108は壺の胴部やや下部と推定されるほかは、109・110の器形は不明であるが、おそらく甕の胴部であろう。



第9図 市来町管内の採集遺物（3）



第10図 市来町管内の採集遺物（4）

第3節 東市来町管内の分布調査

東市来町の調査は、平成3年5月27日から6月14日まで実施した。

東市来町は薩摩半島の中央部、西側に位置し、北は市来町及び薩摩郡樋脇町、東は郡山町、南は伊集院町及び日吉町と境を接し、西は東シナ海に面している。地形は、大まかに言うと、北側が山地、南側が台地で、南西部に若干の低平地が開けて田んぼとなっている。中央を樋脇町に源を發する大里川が西流して北側と南側とを分け、市来町を経て東シナ海に注ぐ。南端は伊集院町を水源とする神之川が、奇岩宮田石を産する宮田の集落を蛇行しながら西流して東シナ海に入る。大里川と神之川の中ほどを、東の重平山からの水を集めながら小じんまりした江口川が西流している。東シナ海に面した江口川と神之川に挟まれた海岸線近くの台地は、海食によると思われるシラスの崖が屹立し、江口蓬来と呼ばれる有名な光景を形造っている。また、大字湯田の湯元には温泉が湧き、県内でも有数の名泉として知られ、湯治場として賑わっている。湯元駅のすぐ北側にある稲荷神社には、天然記念物のやっこ草が生育している。藩政時代の見張番がいたとされる遠見番山からは、東シナ海の船の出入りを一望のもとに見渡すことができると共に、金峰山や笠沙の岬、甌島なども望遠される。

町内の遺跡は、昭和60年刊行の『鹿児島県市町村別遺跡地名表』によると、**弥生時代2**、**寺跡3**、**城跡2**、**墓地2**、**宝塔5**、**田の神2**、**仁王像及び狛犬各2体**が記載されている。東市来町といえば、すぐに苗代川の薩摩焼、と出てくるくらい薩摩焼が有名である。地名を苗代川から美山へと変えたものの、白薩摩の伝統は続いており、黒薩摩の龍門司と共に不動の地位を占めている。文禄・慶長の役後に島津義弘によって連れて来られた朝鮮人陶工たちは、最初に串木野に上陸して島平に窯を開いたが、住人たちと諍いを起こし、この美山の地に再び移されてここで開窯し、現在に至っているというわけである。美山最初の窯は、朴平意が元屋敷窯を開き、次いで堂平窯を、その後、五本松窯が開かれ、御定式窯や南京皿山窯といった御用窯が造られて、時折、藩主も窯を訪れたと伝えられている。そのほか、市来氏の居城であった鶴丸城跡や、鶴丸城攻略の島津貞久が陣を敷いたといわれる総陣ノ尾などがある。また、県営圃場整備に伴う発掘調査が、上二月田遺跡と仮牧段遺跡で行われており、前者からは縄文時代前期・後期及び晩期、弥生時代前期及び中期の土器や石器等が確認され、後者からは縄文時代早期の遺物や5～6世紀頃と見られる溝等が検出されたが、本格的に調査された遺跡は極めて少ないと言える。なお、本年度に、農免農道整備に伴う発掘調査を、陣ヶ原遺跡及び桜原遺跡で行っており、成果が期待される。

今回の調査で56の遺跡が確認された。

1 尾木場遺跡 (オコバ・いせき)

東市来町大字養母字尾木場にあり、東市来町の北東、下尾木場集落の北側、串木野市と境を接する丘陵上にある。遺跡は標高約350mで畑地となっている。

遺物は、弥生式土器、成川式土器、土師器、陶器片を採集したが、図化できない細片だった。

第4表 東市来町管内の遺跡一覧（1）

番号	遺跡名	所在地	地形	時代	遺物	備考
1	尾木場	東市来町養母尾木場	丘陵	弥生・古墳・近世	土器・土師器・陶器	
2	枯松ヶ迫	〃 〃 枯松ヶ迫	段丘	弥生・中世・近世	土器・染付・陶器	
3	端丸	〃 〃 端丸	丘陵	縄文・近世	土器・陶器・石鏃	
4	弓場ヶ迫	〃 〃 弓場ヶ迫	丘陵	縄文・弥生・古墳 中世	土器・石鏃・青磁	
5	中ノ上	〃 〃 中ノ上	丘陵	弥生・古墳	土器	
6	荻陳ヶ原	〃 〃 荻陳ヶ原	段丘	古墳・中世・近世	土器・土師器・陶器	
7	伊勢後	〃 〃 伊勢後	段丘	古墳・中世・近世	土器・土師器・陶器	
8	伊勢ノ上	〃 〃 伊勢ノ上	丘陵	古墳	土器	
9	磐石	〃 〃 磐石	丘陵	古墳・中世・近世	土器・土師器・陶器	
10	狩集	〃 〃 狩集	段丘	古墳	土器	
11	札松	〃 〃 札松	丘陵	中世・近世	土師器・陶器	
12	立野岡	〃 〃 立野岡跡	丘陵	古墳・中世	土器・土師器	
13	比良見	〃 〃 比良見跡	丘陵	中世・近世	土師器・陶器	
14	竹山	〃 〃 竹山跡	丘陵	中世・近世	土師器・陶器	
15	坂元	〃 〃 坂元	段丘	縄文・古墳・中世 近世	土器・土師器・陶器	
16	東下原	〃 〃 東下原跡	丘陵	弥生・古墳・中世 近世	土器・土師器・陶器	
17	梶ヶ原	〃 〃 梶ヶ原跡	丘陵	弥生・古墳・中世 近世	土器・土師器・陶器	
18	半ヶ原	〃 〃 半ヶ原跡	丘陵	弥生・古墳・中世 近世	土器・土師器・陶器	
19	大久保	〃 〃 大久保	台地	古墳・近世	土器・陶器	
20	楠ヶ原	〃 〃 楠ヶ原跡	台地	弥生・古墳・中世 近世	土器・土師器・陶器	
21	大堀	〃 〃 大堀跡	台地	縄文・古墳・中世	土器・陶器	
22	下原	〃 〃 下原跡	台地	古墳・中世	土師器	
23	自在原	〃 〃 自在原跡	台地	弥生・古墳・中世	土器・土師器・陶器	
24	前迫	〃 〃 前迫跡	台地	古墳・中世・近世	土器・土師器・陶器	
25	桜原	〃 〃 桜原跡	台地	古墳・近世	土器・陶器・磁器	H3発掘調査
26	陳ヶ原	〃 〃 陳ヶ原跡	台地	古墳・中世・近世	土器・陶器	H3発掘調査
27	悪坂	〃 湯田悪坂跡	丘陵	古墳・中世	土器・土師器	
28	上松葉佐	〃 〃 上松葉佐	丘陵	古墳・近世	土器・陶器	
29	松葉佐	〃 〃 松葉佐	丘陵	古墳・近世	土器・陶器	
30	上床	〃 〃 上床跡	丘陵	古墳・近世	土器・陶器	
31	麦田	〃 〃 麦田跡	丘陵	古墳・近世	土器・土師器・陶器	
32	岩平	〃 〃 岩平	丘陵	弥生・古墳	土器・土師器	
33	下ノ段	〃 〃 下ノ段	迫頭	弥生・古墳・中世	土器・土師器	

第5表 東市来町管内の遺跡一覧（2）

番号	遺跡名	所在地	地形	時代	遺物	備考
34	勝橋	東市来町湯田勝橋	迫頭	弥生・古墳	土器	
35	西丸牧	" 西丸牧跡	丘陵	古墳・中世	土器・土師器・青磁	
36	平波江	" 平波江	丘陵	古墳	土器	
37	麻畑	" 麻畑跡	丘陵	弥生・古墳	土器・土師器	
38	市右衛門堀	" 市右衛門堀跡	丘陵	弥生・古墳・中世	土器・土師器・染付磁器	
39	市ノ原	" 上市ノ原跡	台地	弥生・古墳・中世	土器・土師器・白磁青磁	
40	諏訪原	" 諏訪原跡	台地	古墳・中世・近世	土師器・陶器・染付	
41	森蘭平	" 長里森蘭平跡	台地 斜面	弥生・古墳・中世	土器・土師器・須恵器	
42	浦田	" " 浦田（一）跡	台地	古墳・中世	土師器	
43	馬場ヶ原	" " 下馬場ヶ原跡	台地	弥生・古墳・中世 近世	土器・土師器・陶器	
44	犬ヶ原	" 伊作田犬ヶ原（一）跡	丘陵	中世・近世	土師器・陶器	
45	金木山	" " 金木山跡	丘陵	古墳・近世	土器・陶器	
46	堂園平	" " 堂園平	丘陵	中世	土師器・染付	
47	今里	" " 今里跡	台地	古墳・中世・近世	土器・土師器・陶器 磁器	
48	老ノ原	" " 東老ノ原跡	台地	弥生・古墳・中世	土器・土師器・染付	
49	立元原	" " 立元原跡	台地	弥生・古墳・中世 近世	土器・土師器・陶器	
50	池之平	" 美山池之平跡	迫頭	古墳・近世	土器・土師器・陶器	
51	水溜	" " 上水溜跡	段丘	中世・近世	土師器・陶器・磁器	
52	原	" 宮田原跡	丘陵	弥生・古墳・中世 近世	土器・土師器・陶器	
53	馬通	" " 馬通跡	丘陵	弥生・古墳・近世	土器・土師器・陶器	
54	力石ヶ原	" 神之川力石ヶ原跡	台地	縄文・弥生・古墳 中世	土器・土師器・青磁 陶器	
55	浜ノ丸	" " 浜ノ丸	後背 砂地	古墳・中世	土師器	
56	堂平窯跡2号窯	" 美山堂平	丘陵 斜面	近世	陶器	(仮称)

2 枯松ヶ迫遺跡 (カレマツガサコ・いせき)

東市来町大字養母字枯松ヶ迫にあり、東市来町の北東部、尾木場集落の北側の標高約300mのところに位置する。北側に聳える標高402mの山からの段丘上にあり、南側には小水田が東西方向に作られている。

遺物は、弥生式土器、染付、陶器片を採集した。113は染付の口縁部で、外面に1条、内面に2条の直線が廻る。

3 端丸遺跡 (ハシマル・いせき)

東市来町大字養母字端丸にあり、尾木場集落の小水田を隔てた南側の丘陵上にあり、墓地も近い。遺跡は畑地となっており、標高は約280~320mの北へ下る斜面である。

遺物は、縄文式土器、石鏃、陶器片を採集した。226は凹基式の石鏃である。

4 弓場ヶ迫遺跡 (ユミバガサコ・いせき)

東市来町大字養母字弓場ヶ迫にあり、端丸遺跡の南側約600mの丘陵上に位置し、郷戸集落を見下ろす南側への傾斜面にある。標高約150mにある遺跡の南側は、比高差約50mで八房川が西流している。

遺物は、石鏃、弥生式土器、成川式土器、須恵器、青磁片を採集した。114と115は須恵器、116~118は青磁碗である。116は褐釉、117は蓮弁を削り出し、118は丸味を帯びた蓮弁を表している。227~229は石鏃であるが、227・229は何れも抉りの小さい凹基式であろう。

5 中ノ上遺跡 (ナカノウエ・いせき)

東市来町大字養母字中ノ上にあり、東市来町の北東部、町立高山小学校の西側の犬小屋段集落に位置する。遺跡は集落から西に延びる丘陵上に広がっており、標高約280mである。

遺物は、弥生式土器、成川式土器片を採集した。

6 荻陳ヶ原遺跡 (オギジンガハラ・いせき)

東市来町大字養母字陳ヶ原にあり、東市来町の東部、荻集落の東側に位置する。遺跡は南流する大里川を望む緩傾斜の段丘上にあり、標高は約80mである。陳ヶ原字は本町には2か所にあり、何れも大字養母に所在するが、美山地域近くの方が本年度発掘調査が行われた際に陳ヶ原遺跡としているため、混同を避けるために本遺跡には荻という集落名を付した。また、陳はチンと読むのが普通であるが、住民課でも本字を用いてジンガハラと呼称しているため、そのままの呼び方を遺跡名とした。

遺物は、成川式土器、土師器、陶器片を採集した。119は鞆の羽口であり、端部は火熱を受け、使用した痕跡が明瞭である。周辺に製鉄関連の遺跡のあることが考えられる。時期は不明であるが、遺物の観察から中世頃と考えられる。

7 伊勢後遺跡 (イセノウシロ・いせき)

東市来町大字養母字伊勢後にあり、荻集落の南東、神社を中心とする段丘上に位置する。標高約80m、東に緩傾斜で下っており、畑地や家屋が入り混じっている。

遺物は、成川式土器、土師器片を採集した。120は内黒土師器の口縁部である。

8 伊勢ノ上遺跡 (イセノウエ・いせき)

東市来町大字養母字伊勢ノ上にあり、荻集落の中央を占める丘陵上に位置する。標高約110mのほぼ平らな畑地である。

遺物は、成川式土器片を採集した。

9 磐石遺跡 (バンセキ・いせき)

東市来町大字養母字磐石にあり、上床集落の北西部、標高約140～170mの北側へ割合に急な傾斜をもつ丘陵上に位置する。平成2年度に発掘調査が行われた**仮牧段遺跡**の西約800mにあり、傾斜面を利用した果樹栽培が行われている。

遺物は、成川式土器、須恵器、土師器、陶器片を採集した。121は須恵器、122は土師器であるが、何れも叩き目を有する。前者は古墳時代、後者は平安時代のころのものと思われる。

10 狩集遺跡 (カリアツマリ・いせき)

東市来町大字養母字狩集にあり、東市来町の東部、田代地域の北側に位置する。遺跡は標高約180m、南へ傾斜をもって下る段丘上に位置する。

遺物は、成川式土器片を採集した。

11 札松遺跡 (フダマツ・いせき)

東市来町大字養母字札松にあり、**狩集遺跡**の西約400mの丘陵上に位置する。三方を田に囲まれており、水田からの比高差は約20m、標高約170mである。

遺物は、土師器、陶器片を採集した。

12 立野岡遺跡 (タテノオカ・いせき)

東市来町大字養母字立野岡ほかにあり、田代西集落の北側の丘陵上に位置する。遺跡は標高約140mで、畑地の中に家屋が散在する。**狩集遺跡**の南西約500mで、同遺跡とは同じ尾根の先端部付近といえる。

遺物は、成川式土器と土師器を採集した。

13 比良見遺跡 (ヒラミ・いせき)

東市来町大字養母字比良見ほかにあり、田代西集落の東側の丘陵上に位置する。**立野岡遺跡**とは隣接するが、南側の水田に突き出した小さな丘で、標高約120mである。

遺物は、土師器、陶器片を採集した。123と124は何れも土師器で、前者は碗、後者は皿の口縁部と思われる。125は陶器製円板である。

14 竹山遺跡 (タケヤマ・いせき)

東市来町大字養母字竹山ほかにあり、田代西集落の南側、水田を挟んだ標高約120mの独立丘陵上の西側に位置し、比高差約20mで小規模な圃場整備が行われた水田に下る。

遺物は、土師器、陶器片を採集した。126は土師器碗の底部と思われる。

15 坂元遺跡 (サカモト・いせき)

東市来町大字養母字坂元にあり、北山集落とは西流する大里川を挟んだ南側の段丘上に位置し、昭和62年度に発掘調査が行われた上二月田遺跡とは約150m離れているにすぎない。標高110

m, 水田との比高差約20mである。

遺物は、縄文式土器、成川式土器、土師器、陶器片を採集した。127は縄文時代晩期の口縁部外面に突帯を有する深鉢形土器、128は成川式土器の壺形土器の底部付近で、内面はハケ目による調整痕が見られる。

16 東下原遺跡 (ヒガシシモハラ・いせき)

東市来町大字養母字東下原ほかにあり、坂元遺跡と隣接した丘陵上に位置する。標高約90～130mで北側に向けて段状に傾斜しているが、上部(南側)は圃場整備によりシラス層が見られるところもあることから、大里川に近い箇所ほど遺跡の残りは良いと思われる。

遺物は、弥生式土器、成川式土器、土師器、陶器片を採集した。129は弥生時代後期と思われる甕形土器の口縁部、130と131は共に土師器の塊で、前者は口縁部、後者は底部である。

17 柵ヶ原遺跡 (カコイガハラ・いせき)

東市来町大字養母字柵ヶ原ほかにあり、東下原遺跡の南側の丘陵上に位置する。標高約150mのほぼ平らな地形であり、割合に広い。西側は道路に沿って一段低くなっている。

遺物は、弥生式土器、成川式土器、須恵器、土師器、陶器片を採集した。132は成川式土器の甕形土器の口縁部、133は平安時代頃と思われる須恵器、134は染付である。

18 半ヶ原遺跡 (ハンガハラ・いせき)

東市来町大字養母字半ヶ原ほかにあり、東市来町の西部ほぼ中央に位置する下養母集落の北側後方の丘陵上にある。遺跡は標高約130mで東西にはほぼ平らに広がっている。

遺物は、弥生式土器、成川式土器、土師器、陶器片を採集した。135は成川式土器の鉢形土器の口縁部と思われ、内面にはハケ目痕が残る。

19 大久保遺跡 (オオクボ・いせき)

東市来町大字養母字大久保にあり、東市来町の東部、伊集院町と境を接し、上神殿下集落の西側に位置する。遺跡は標高約180mの丘陵上にあり、道路を隔てて柵ヶ原遺跡以西の大規模な台地を有する丘陵に繋がる。

遺物は、成川式土器、陶器片を採集した。136は成川式土器の甕形土器の口縁部である。

20 楠ヶ原遺跡 (クスガハラ・いせき)

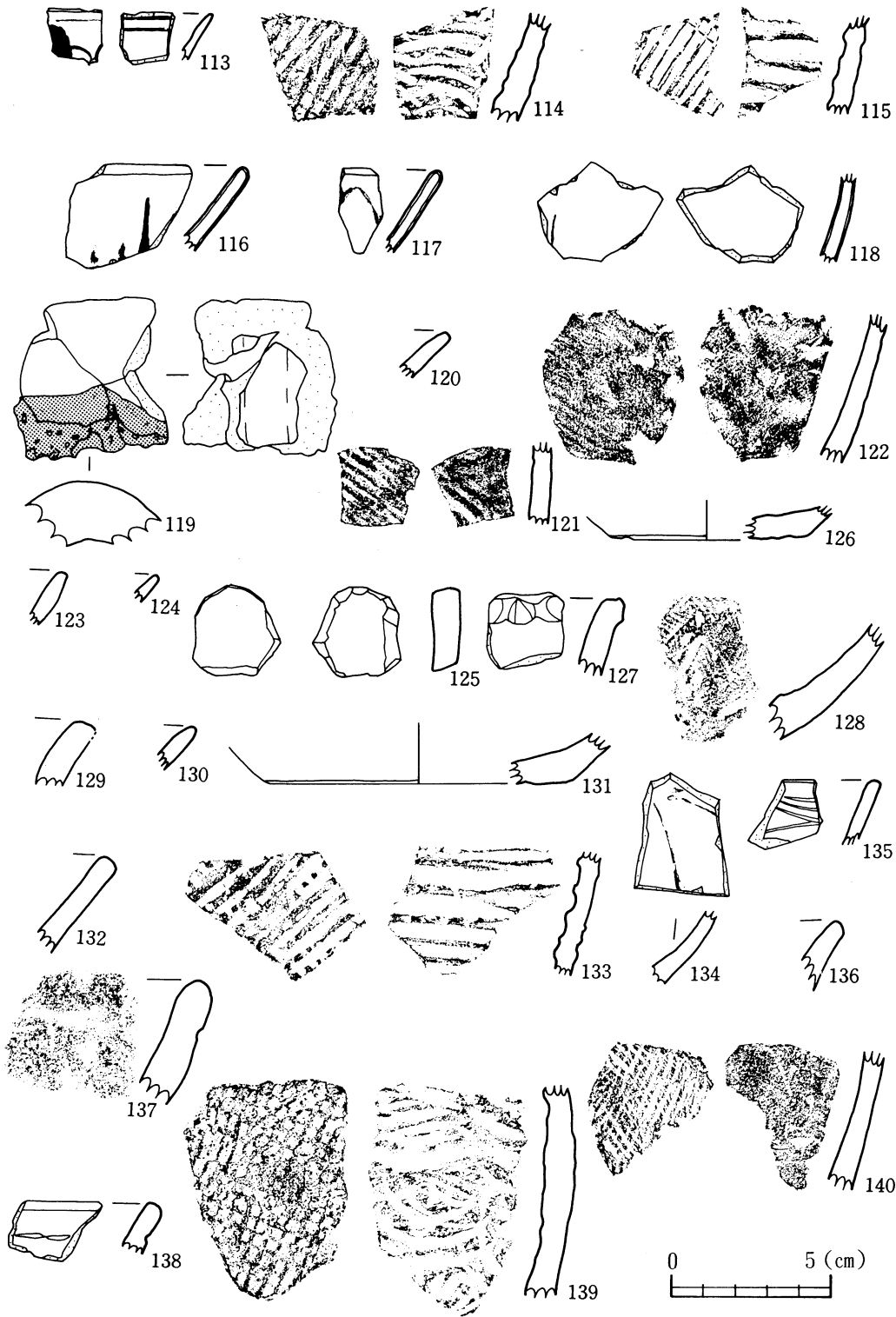
東市来町大字養母字楠ヶ原ほかにあり、田代地域の南側丘陵上に広がる台地に位置する。標高約180mのほぼ平らな地形であるが、西側にかけてはやや緩傾斜で下っている。伊集院町の上神殿地域とは境を接している。

遺物は、弥生式土器、成川式土器、土師器、陶器片を採集した。230はほぼ完形な石鏃。

21 大堀遺跡 (オオホリ・いせき)

東市来町大字養母字大堀ほかにあり、楠ヶ原遺跡に隣接する西側へ緩傾斜で下る台地上に位置する。遺跡は標高約180mで茶を中心とする広大な畑地となっている。

遺物は、縄文式土器、成川式土器、陶器片を採集した。137は縄文式土器の深鉢形土器の口縁部である。胎土は石英、長石などを多く含み、焼成は良い。口縁端部がやや肥厚している。



第11図 東市来町管内の採集遺物 (1)

22 下原遺跡 (シモハラ・いせき)

東市来町大字養母字下原ほかにあり、大堀遺跡の南側に、伊集院町の下神殿集落に台状に突き出した台地上に位置する。大堀遺跡とは標高差がほとんどないが、遺物は南側台状に突き出した部分にしか見当らず、同遺跡とは旧地形などから隔たっていることが考えられ、単独の遺跡としたが、繋がっている可能性も捨てきれない。

遺物は、成川式土器、土師器片を採集した。

23 自在原遺跡 (ジザイハラ・いせき)

東市来町大字養母字自在原ほかにあり、伊集院町野田地域の北側の台地上に位置し、同町と境を接している。遺跡は標高約150mのほぼ平らな台地上にあり、茶などの畑地となっている。

遺物は、弥生式土器、成川式土器、須恵器、土師器、陶器片を採集した。138は成川式土器の甕形土器の口縁部で、輪積み痕が凹んで残る。139と140は同じく須恵器であるが、前者は外面に格子状の、内面に同心円状及び平行の叩き目が残る甕の胴部、後者は外面を平行な叩き目が斜めに交わるように叩いて調整しているものの内面には見られないことから壺かと考えられる。

24 前迫遺跡 (マエサコ・いせき)

東市来町大字養母字前迫ほかにあり、自在原遺跡とは同じ台地の西側に位置し、標高約140mで、西側にかけてやや下っている。広大な畑地となっており、南側には桜原遺跡が広がる。

遺物は、成川式土器、土師器、陶器片を採集した。141は成川式土器の甕形土器の頸部から胴部にかけての部分で、胴部が若干張るタイプのものと思われる。

25 桜原遺跡 (サクラハラ・いせき)

東市来町大字養母字桜原ほかにあり、大堀遺跡とは同じ台地の南側にあたり、標高約130～140mと緩やかに南西に下っている。本年度、西隣の陳ヶ原遺跡と共に発掘調査が行われた。

遺物は、成川式土器、磁器、陶器片を採集した。142は陶器製円板である。径約2.5cm。

26 陳ヶ原遺跡 (ジंगाハラ・いせき)

東市来町大字養母字陳ヶ原ほかにあり、桜原遺跡とは迫を隔てた台地上に位置し、距離は約100mしか離れていない。本年度発掘調査が行われた。

遺物は、成川式土器、陶器片を採集した。

27 悪坂遺跡 (アクサカ・いせき)

東市来町大字湯田字悪坂ほかにあり、東市来町のほぼ中央部やや北寄りにある大平集落の南側に延びる丘陵上に位置し、標高約140～180mで南へ割合に急に下っている。

遺物は、成川式土器、土師器片を採集した。

28 上松葉佐遺跡 (カミマツバサ・いせき)

東市来町大字湯田字上松葉佐にあり、悪坂遺跡の南側約150mの丘陵上に位置する。標高約150mであるが、南へ割合に急な傾斜をもつ。

遺物は、石鏃、成川式土器、陶器片を採集した。143は成川式土器の甕形土器の突帯で、胴部であろう。231は完形の石鏃で、抉りの深い凹基式である。

29 松葉佐遺跡（マツバサ・いせき）

東市来町大字湯田字松葉佐にあり、**上松葉佐遺跡**の南西、標高約150mの丘陵上に位置する。東に緩傾斜で下り、畑作が行われている。

遺物は、成川式土器、陶器片を採集した。

30 上床遺跡（ウウトコ・いせき）

東市来町大字湯田字上床ほかにあり、**松葉佐遺跡**の迫を挟んで約100m南にある丘陵上に位置する。標高150～170mで西側に小高い丘をもち、東側に緩傾斜で下る。

遺物は、成川式土器、陶器片を採集した。

31 麦田遺跡（ムギタ・いせき）

東市来町大字湯田字麦田ほかにあり **上床遺跡**とは間に水田化している谷を挟んだ約600m南に位置する。遺跡は標高約90mの丘陵上にあり、**半ヶ原遺跡**の北側、比高差約50mの低い場所にある。また、西側は**岩平遺跡**と隣接している。

遺物は、成川式土器、土師器、陶器片を採集した。

32 岩平遺跡（イワヒラ・いせき）

東市来町大字湯田字岩平にあり、**麦田遺跡**とは隣接する丘陵上に位置する。標高は約60～80mで、北側にかけて割合に急に下る。

遺物は、弥生式土器、成川式土器、土師器片を採集した。**144**は成川式土器の甕形土器の脚部で、内面にはハケ目による調整痕が残る。

33 下ノ段遺跡（シモノダン・いせき）

東市来町大字湯田字下ノ段にあり、皆田東集落の東の小丘陵に挟まれた迫頭に位置する。**岩平遺跡**とは、水田を隔てて北西約400mの距離にあり、標高約90mで南西に下っている。

遺物は、弥生式土器、成川式土器、須恵器、土師器片を採集した。**145**は須恵器であるが、器壁が薄いことから坏かとも思えるが、不明である。

34 勝橋遺跡（カツハシ・いせき）

東市来町大字湯田字勝橋にあり、丸牧集落の南側、東南に下る迫頭に位置する。標高約90mで、町立皆田小学校の北約150mの畑地である。

遺物は、弥生式土器、成川式土器片を採集した。

35 西丸牧遺跡（ニシマルマキ・いせき）

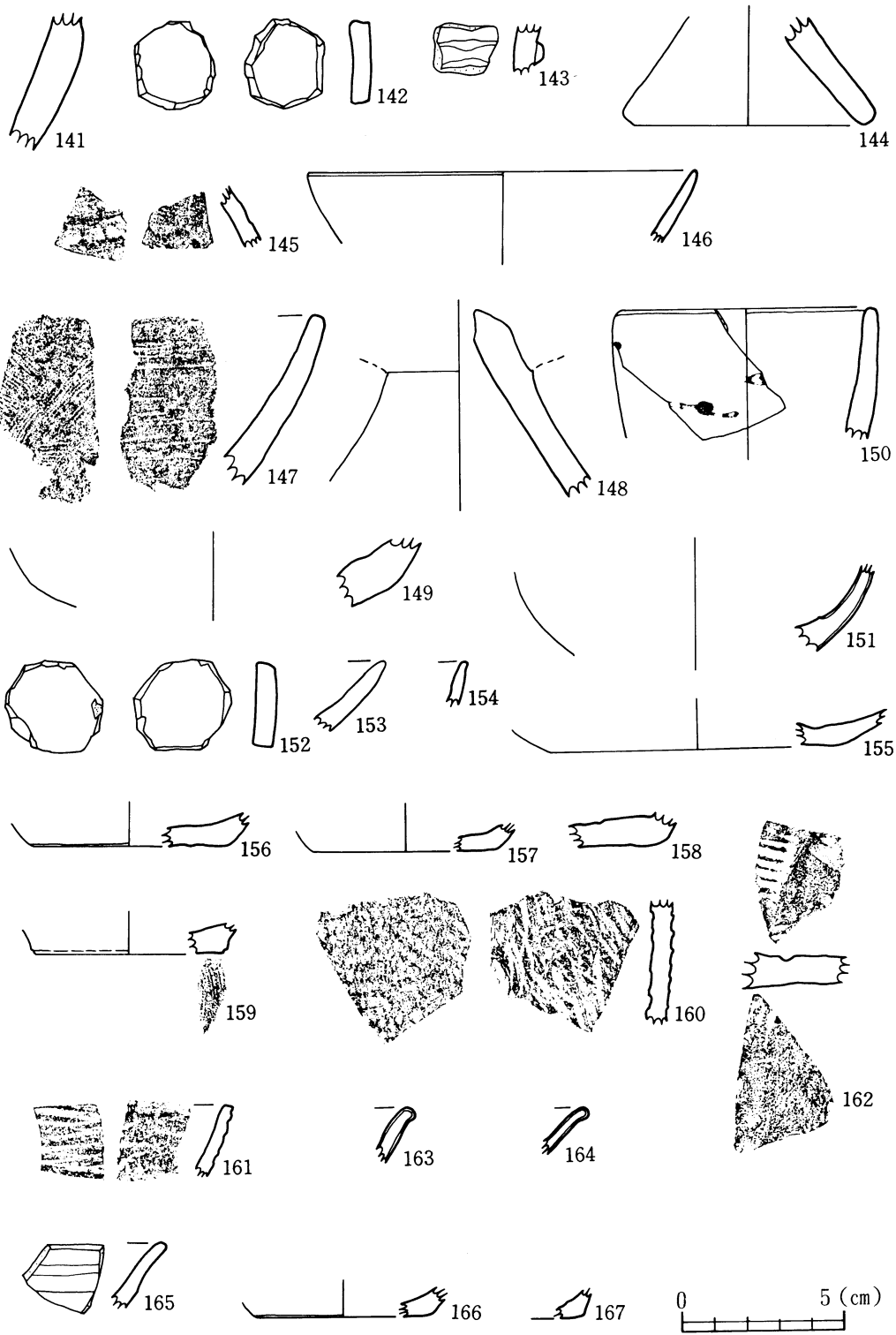
東市来町大字湯田字西丸牧ほかにあり、丸牧集落の北西部の丘陵上に位置する。標高約120～140mで、南西に緩やかに下る果樹園にある。

遺物は、成川式土器、土師器、青磁片を採集した。**146**は青磁碗の口縁部でやや褐色を帯びる。

36 平波江遺跡（ヒラハエ・いせき）

東市来町大字湯田字平波江にあり、東市来町の西部、市来町と境を接する丘陵に位置する。上野西集落を囲む標高約170mのところで、西は市来町に若干延びている。

遺物は、成川式土器片を採集した。



第12図 東市来町管内の採集遺物（2）

37 麻畑遺跡 (アサハタ・いせき)

東市来町大字湯田字麻畑ほかにあり、平波江遺跡の南東約300mの丘陵上に位置する。標高約150m前後で、北東に若干傾斜する。

遺物は、弥生式土器、成川式土器、土師器片を採集した。

38 市右衛門堀遺跡 (イチウエモンボリ・いせき)

東市来町大字湯田字市右衛門堀ほかにあり、麻畑遺跡から南西に延びた丘陵上に位置する。遺跡は南西に緩やかに傾斜し、標高約130mである。

遺物は、弥生式土器、成川式土器、土師器、染付、磁器片を採集した。147と148は成川式土器で、前者は壺形土器の口縁部で、外面には整然としたハケ目が見られ、後者は高坏の脚部で、坏部とははめ込み式となっていることがよくわかる。149は土師器の壺の胴部であろう。151は白磁碗の底部近くであり、150は青描の文様に青緑色のひび釉をかける。152は長径2.8cm短径2.6cmの陶器製円板である。

39 市ノ原遺跡 (イチノハラ・いせき)

東市来町大字湯田字上市ノ原ほかにあり、湯ノ元市街地の南側に広がる台地の西部に位置する。遺跡は、市来町の上ノ原遺跡と隣接し、標高約40mの広大な台地全体に及び、蚕業試験場もその一部に入る。南東には、森園平遺跡や今里遺跡などが続く一大遺跡群となっている。

遺物は、弥生式土器、成川式土器、土師器、須恵器、青磁、白磁、陶器片を採集した。153～159は土師器の埴及び皿である。159は糸切り底である。160と161は須恵器、162は陶器の底部、163・164は青磁碗の口縁部である。

40 諏訪原遺跡 (スワバラ・いせき)

東市来町大字湯田字諏訪原ほかにあり、湯ノ元市街地の東南、湯ノ元球場や県の消防学校がある広大な台地に位置する。国道3号線によってカットされている町営住宅等が建ち並んでいる台地の東側も遺跡の範囲であるが、残存状態はそれほど良くないと考えられる。標高約80m。

遺物は、土師器、染付、白磁、陶器片を採集した。165は白磁碗の口縁部で、166と167は土師器の皿の底部と考えられる。

41 森園平遺跡 (モリゾンビラ・いせき)

東市来町大字長里字森園平ほかにあり、市ノ原遺跡と諏訪原遺跡、浦田遺跡、今里遺跡に囲まれた台地の斜面に位置し、北東方向に傾斜している。地形的には、標高約40～80mと相当の比高差をもつが、各段毎にはほぼ東西方向に帯状に平らとなっている。遺跡の下方に数カ所の湧水点があるようであり、そこから小河川となって大里川に流れ込んでいる。

遺物は、弥生式土器、成川式土器、土師器、須恵器、青磁、染付片を採集した。172は成川式土器の甕形土器の頸部で、内面にはハケ目と共に草の実と思われる痕跡が残る。168～171、173～175は土師器であるが、中世の頃のものが多い。176と177は青磁碗の口縁部であるが、前者の表面には細線により文様が描かれているが、蓮弁ではないようである。178は染付碗の底部で、外面底部及び高台の両面には1～2条の線が廻っている。

42 浦田遺跡 (ウラタ・いせき)

東市来町大字長里字浦田ほかにあり、諏訪原遺跡から南に延びる台地上に位置する。標高は約80mの、やや北側に傾斜したところである。

遺物は、成川式土器、土師器片を採集した。179は土師器の皿の口縁部である。

43 馬場ヶ原遺跡 (ババガハラ・いせき)

東市来町大字長里字下馬場ヶ原ほかにあり、養母集落と美山集落を隔てる丘陵上に位置し、標高約150～170mで、南西にやや下るが、広大な台地をなしている。

遺物は、弥生式土器、成川式土器、土師器、陶器片を採集した。180は成川式土器の甕形土器の底部である。

44 犬ヶ原遺跡 (イヌガハラ・いせき)

東市来町大字伊作田字犬ヶ原ほかにあり、東市来町の南西部、伊作田地域の東方に位置する。遺跡は上伊作田集落の東後方の丘陵上にあり、標高約70～90mのやや急傾斜な畑地である。JR鹿児島本線の東市来駅の西側に当たり、金木山遺跡とは同じ山塊の異なった尾根といえる。

遺物は、土師器、陶器片を採集した。

45 金木山遺跡 (カネキヤマ・いせき)

東市来町大字伊作田字金木山ほかにあり、犬ヶ原遺跡と隣り合う丘陵上に位置する。元伊作田集落の東後方に当たり、標高は約50～60mで、やや急な傾斜を有する。

遺物は、成川式土器、陶器片を採集した。181は成川式土器の高坏と思われ、内外面共に丹を塗る。182は土師器の埴の底部、183は内面を刷毛状の器具で整形した陶器で、甕であろう。

46 堂園平遺跡 (ドウゾノビラ・いせき)

東市来町大字伊作田字堂園平にあり、遠見番山から東に延びた尾根から台地に下りる直前の丘陵上に位置する。坂之上下集落公民館の周辺で、標高約40m、向柵城跡の北後方にある。

遺物は、土師器、染付片を採集した。184は土師器の坏の口縁部と思われる。

47 今里遺跡 (イマザト・いせき)

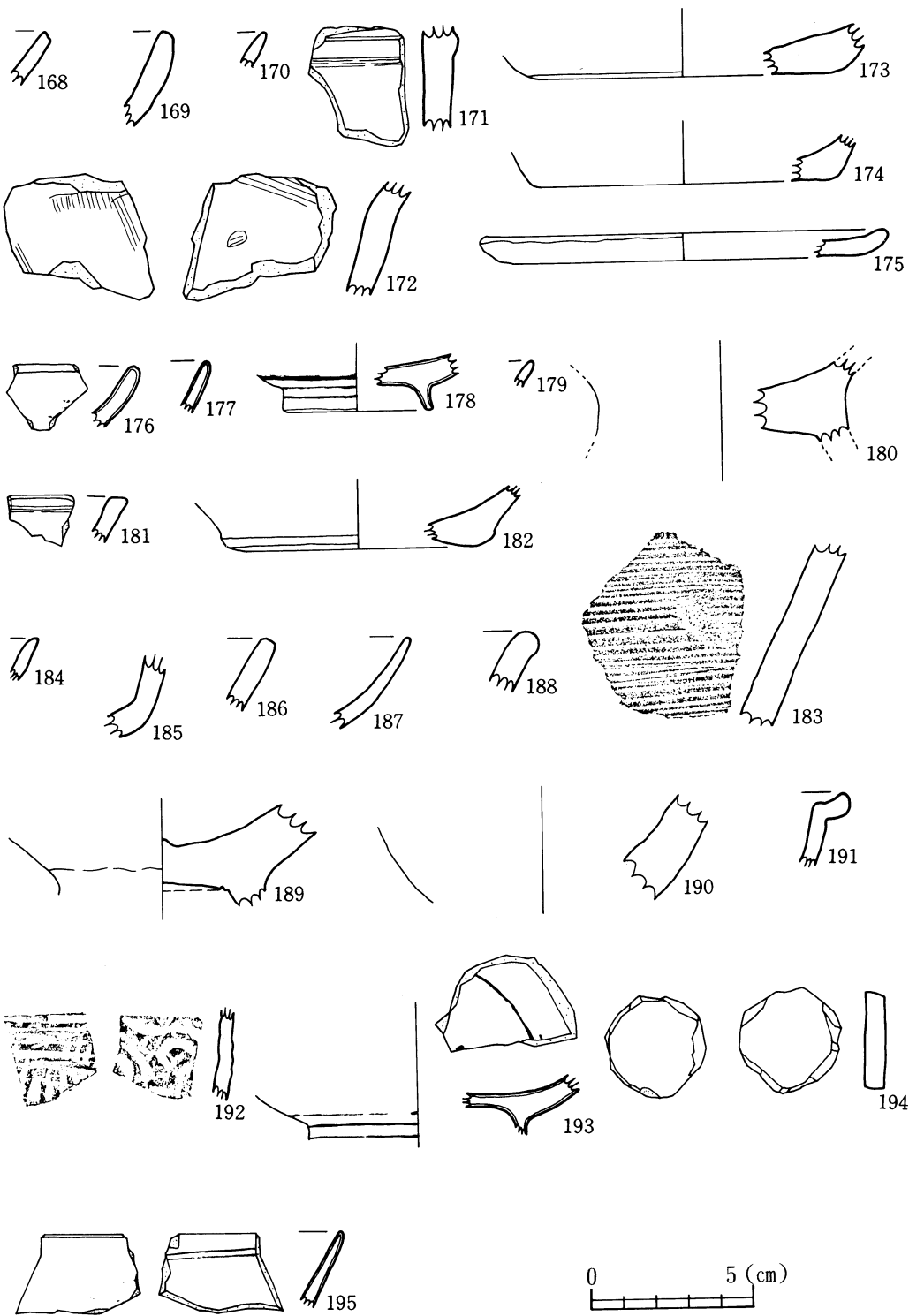
東市来町大字伊作田字今里ほかにあり、遠見番山の北側の裾野に広がる台地上に位置する。北東斜面は森園平遺跡となり、湯ノ元市街地上の台地に形成された広大な遺跡群に連なっている。標高約50mのほぼ平らな畑地が広がっているが、北西部は削平されているところもある。

遺物は、成川式土器、土師器、陶器、磁器片を採集した。185と190は壺形土器の胴～底部付近、186と189は甕形土器の口縁部及び底部で、何れも成川式土器である。188は土師器の甕の口縁、192は須恵器、191は青磁で玉縁状の口縁をもつ。193は染付である。

48 老ノ原遺跡 (オイノハラ・いせき)

東市来町大字伊作田字東老ノ原ほかにあり、伊作田城跡とは南側に迫状に入り込んだ水田を挟んで、約200mの台地上に位置する。標高は約50～60mで、西へ向かって緩やかに傾斜しており、西端は東シナ海へ断崖となって落ちる“江口蓬来”を形造っている。

遺物は、弥生式土器、成川式土器、土師器、染付、陶器片を採集した。195は染付の碗で、内



第13図 東市来町管内の採集遺物（3）

面には2条の線が廻るが、外面の文様は不明である。194は陶器製円板である。

49 立元原遺跡 (タテモトハラ・いせき)

東市来町大字伊作田字立元原ほかにあり、吹上浜に面した永山集落の北後方の台地上に位置する。標高約30mであるが、北側に向けてやや緩傾斜で下る。

遺物は、弥生式土器、成川式土器、土師器、陶器片を採集した。196は成川式土器の甕形土器の口縁部、197は土師器の皿の口縁部である。198は土師器の甕の牛角状の把手であろう。

50 池之平遺跡 (イケノヒラ・いせき)

東市来町大字美山字池之平ほかにあり、美山集落の西側、池を廻る迫頭に位置する。美山は薩摩焼発祥の地として名高く、本遺跡周辺にも南京皿山窯跡や御定式窯跡などの古窯が多く見られる。標高は約80mで、若干東へ傾斜している。

遺物は、成川式土器、土師器、陶器片を採集した。199は陶器で円盤状を呈するが、製品なのか窯道具なのかは不明である。底部は糸切り痕が残る。

51 水溜遺跡 (ミズタマリ・いせき)

東市来町大字美山字上水溜ほかにあり、美山集落の東部、伊集院町との境に近い段丘上に位置する。標高約90m、西へ向かってやや迫状に下りている。

遺物は、土師器、陶器、磁器片を採集した。200は陶器製円板で、甕からの転用と思われる。

52 原遺跡 (ハラ・いせき)

東市来町大字宮田字原ほかにあり、東市来町の南西部、西流して東シナ海に注ぐ神之川を見下ろす標高約40mの丘陵に位置する。ほぼ平らな畑地であり、一段低い南側には馬通遺跡がある。宮田集落の西後方にある。

遺物は、弥生式土器、成川式土器、土師器、陶器片を採集した。201は成川式土器の甕形土器の、202は白磁碗の口縁部、203は陶器製円板である。

53 馬通遺跡 (ウマトオシ・いせき)

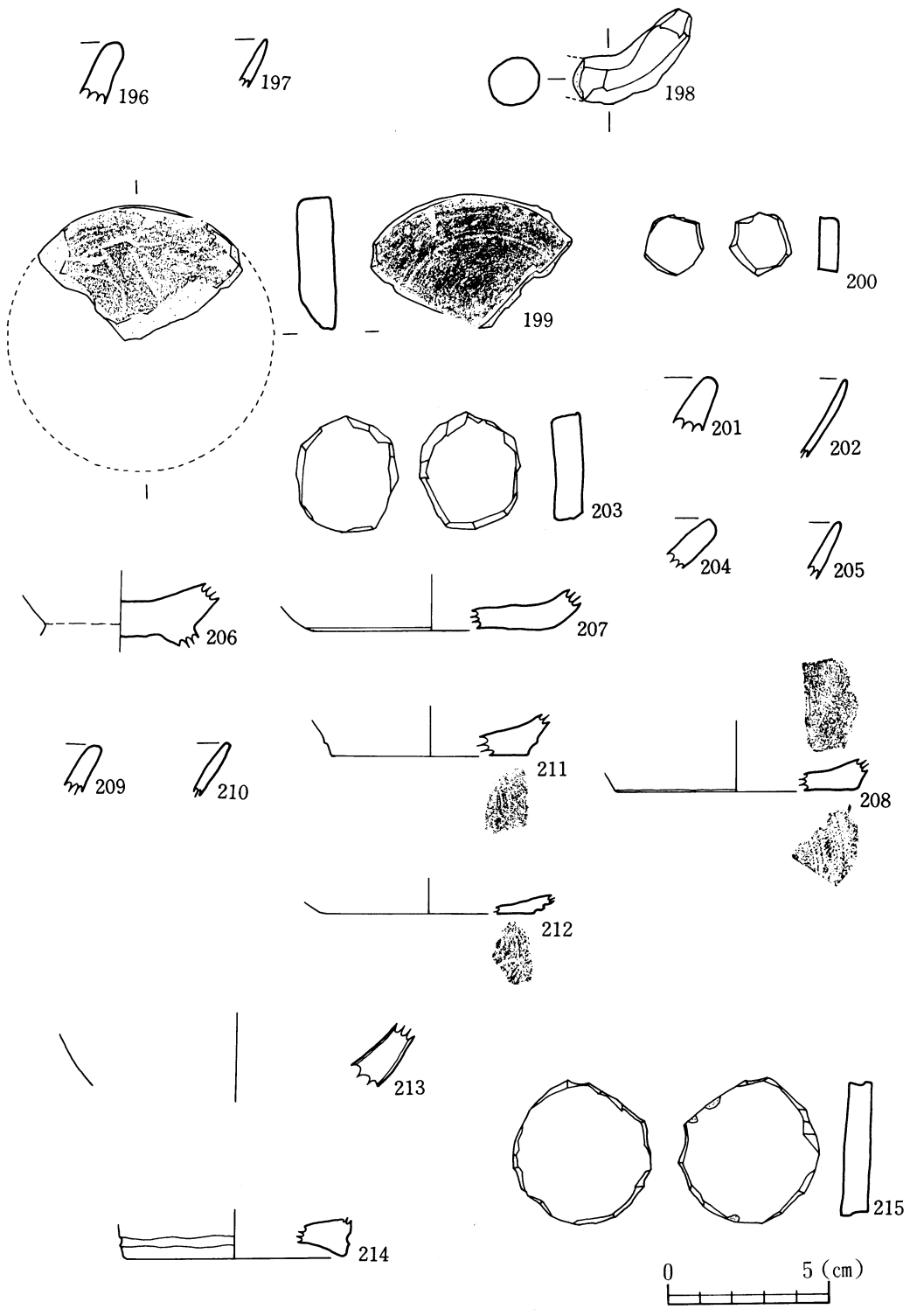
東市来町大字宮田字馬通ほかにあり、原遺跡の南、一段低い丘陵上に位置する。標高約20～30mで、急崖をなして神之川に至る。宮田集落の西に広がった畑地である。

遺物は、弥生式土器、成川式土器、土師器、陶器片を採集した。204と206は成川式土器の甕形土器の口縁部及び底部で、205・207・208は土師器の碗及び皿の口縁部と底部である。208は外底には糸切り痕が、内底にはナデ回しによる調整痕がそれぞれ残る。

54 力石ヶ原遺跡 (チカライシガハラ・いせき)

東市来町大字神之川字力石ヶ原ほかにあり、神之川集落から美山集落へ向けて上った標高約40mの台地上に位置する。東西に長く、幅も広い台地上全体に及び、畑地となっている。

遺物は、縄文式土器、弥生式土器、成川式土器、土師器、青磁、陶器片を採集した。209は成川式土器の甕形土器の口縁部、201は同じく壺形土器の口縁部である。211・212は土師器の碗(211)及び皿(212)の底部である。両者共に糸切り底である。213は青磁の碗の底部に近い胴部と思われ、釉が厚くかかる。



第14図 東市来町管内の採集遺物（4）

55 浜ノ丸遺跡 (ハマノマル・いせき)

東市来町大字神之川字浜ノ丸にあり、神之川集落の北側、後背砂地に位置する。標高約15mで、中央部がやや低く、凹地状となっている。

遺物は、成川式土器、土師器片を採集した。

56 堂平窯跡2号窯 (ドウビラガマアトニゴウガマ・かまあと) (仮称)

東市来町大字美山字堂平にあり、池之平遺跡の南約50mにある堂平窯跡の東後方に南側に下る尾根の東側の傾斜面に位置する。標高約70mで、早い時期に認知されていた堂平窯跡の背後に窯跡があることは知られていなかった。今回確認した窯跡が古文書や文献等に記載されている可能性があるため、仮に同窯の2号窯と呼んでおくこととし、今後、文献等で確認するか、町または県の文化財保護審議会の答申を待って正式な名称が付けられるものと期待している。

遺物は、陶器及び窯道具を採集した。216は鉢の口縁部で、T字状の口縁がやや外傾している。217は甕の底部と思われる。218は同じく甕の胴部、219は壺である。220と221は鉢の底部と考えられる。222のような陶器製円板も採集した。223は窯の一部が剥落したもののようである。224と225は窯道具と思われる、陶枕の一種と推定される。

以上のほかに、今回の調査で回った周知の遺跡で採集した主な遺物のうち、2点を紹介する。

向榕城跡 (ムカイガコイジョウアト・しろあと)

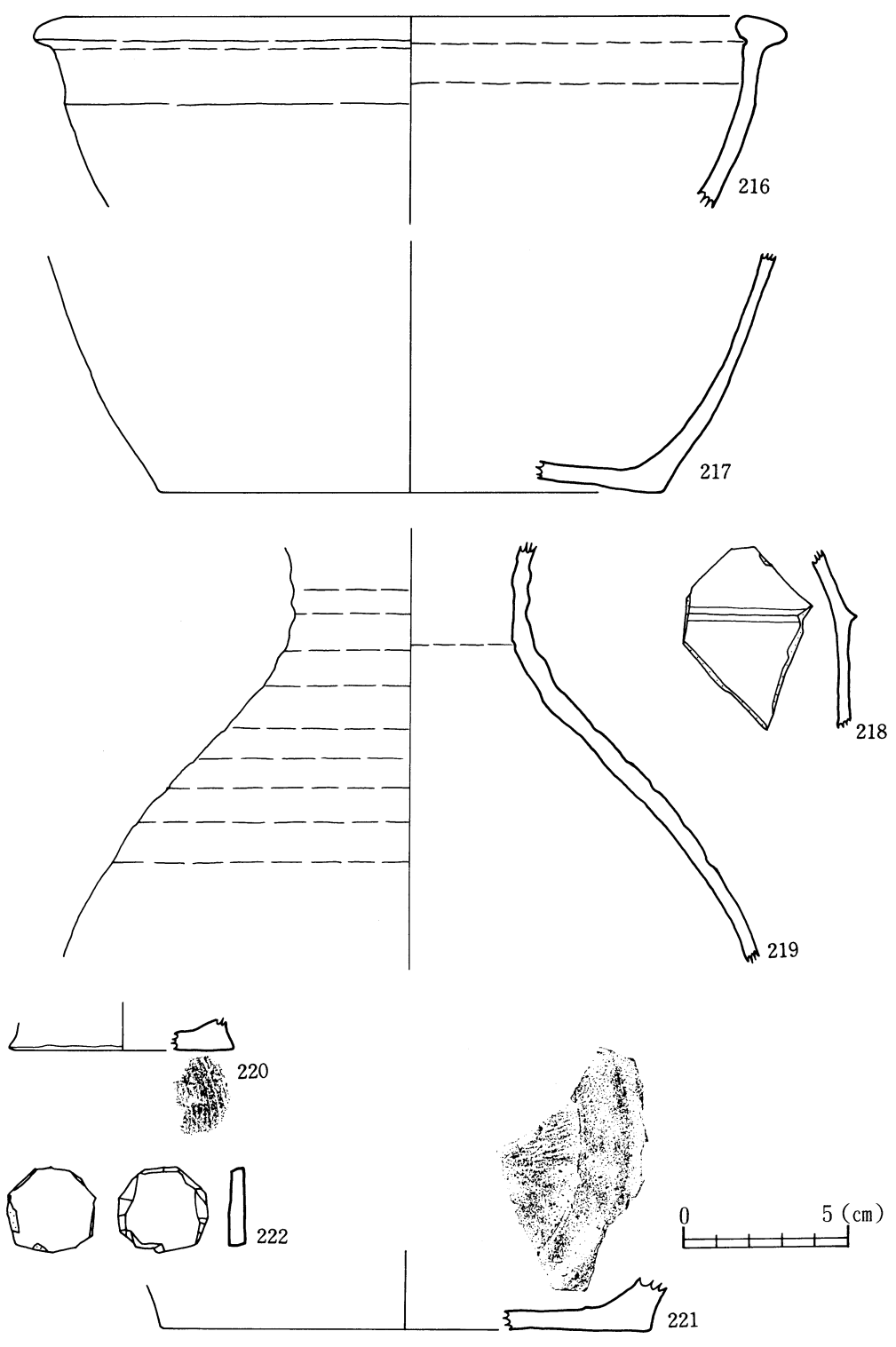
上伊作田集落の西に、榕城跡に対峙するように作られた残存状況の良好な城跡である。

214は土師器の堦の底部で、外面には沈線が廻っており、高台が付く。

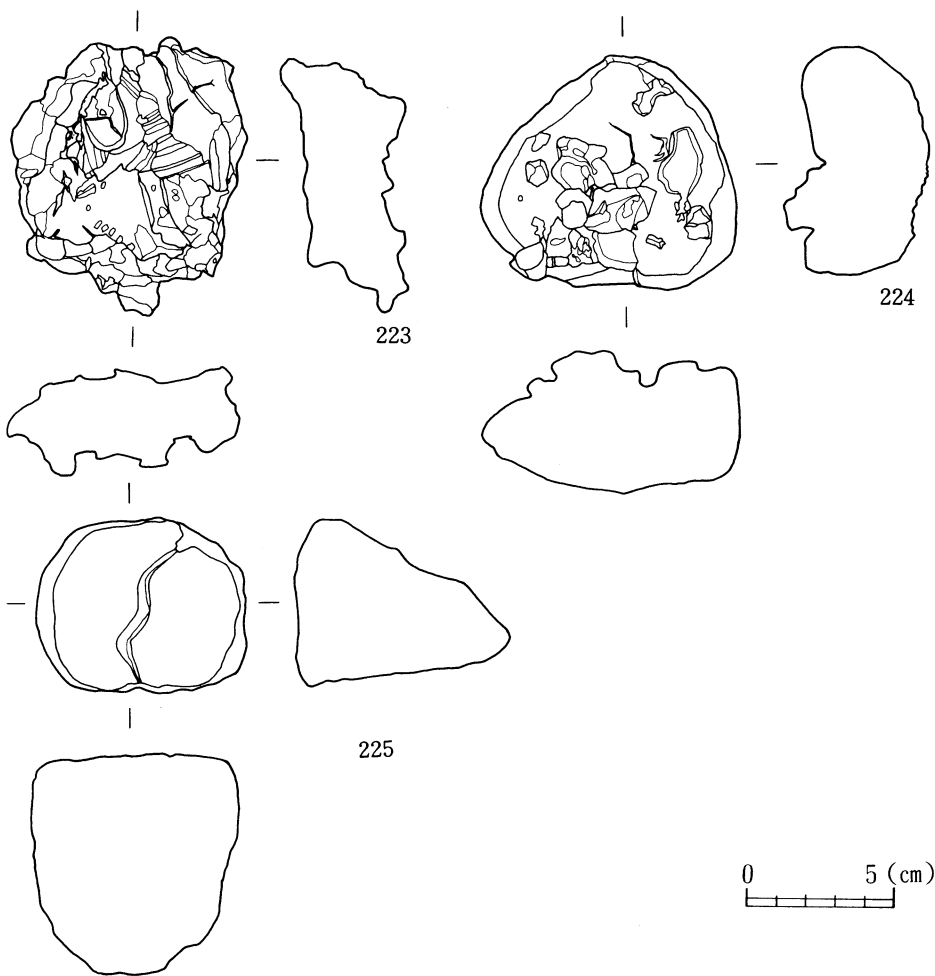
伊作田城跡 (イサクダジョウアト・しろあと)

伊作田小学校の北方後方に東西方向に大きく広がる城跡であり、伊作田氏の居城である。

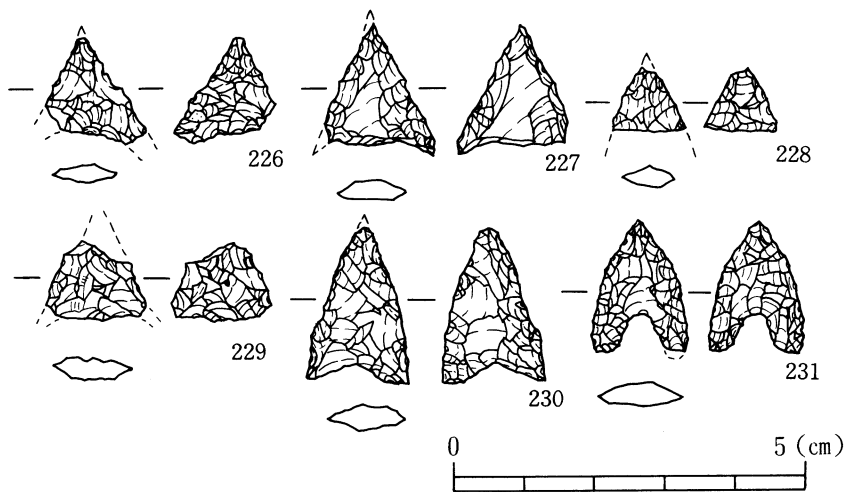
215は陶器製円板で、径約4cmと割合に大きいものである。



第15図 東市来町管内の採集遺物（5）



第16図 東市来町管内の採集遺物（6）



第17図 東市来町管内の採集遺物（7）



丸尾遺跡



芋野原遺跡

串木野市管内の遺跡遠景（1）

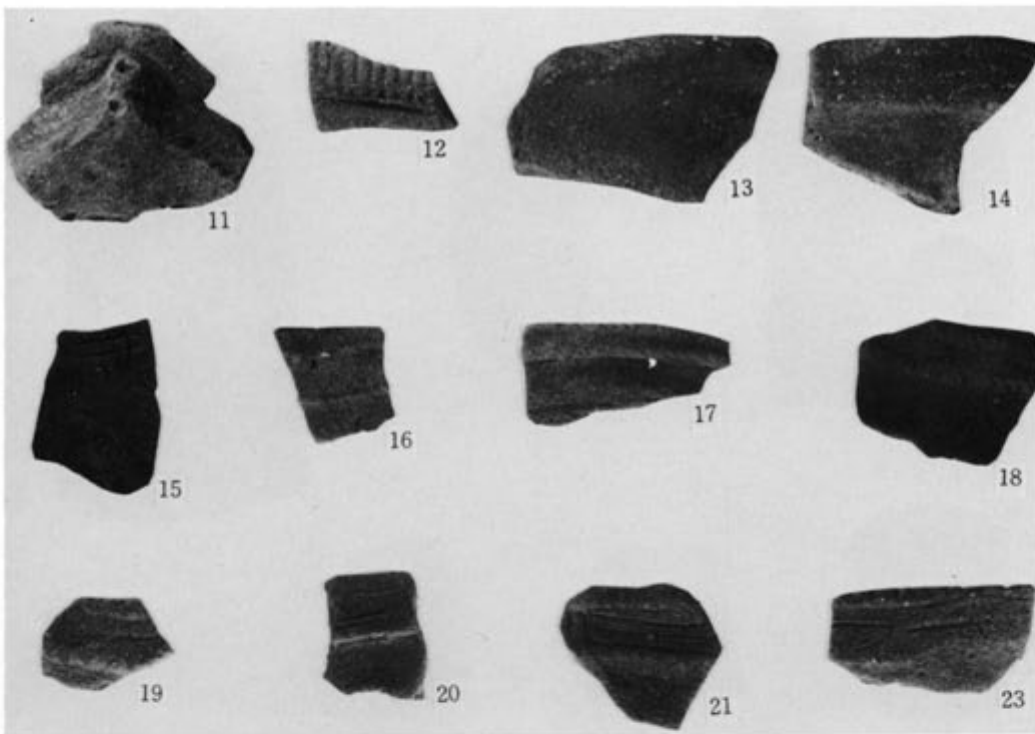
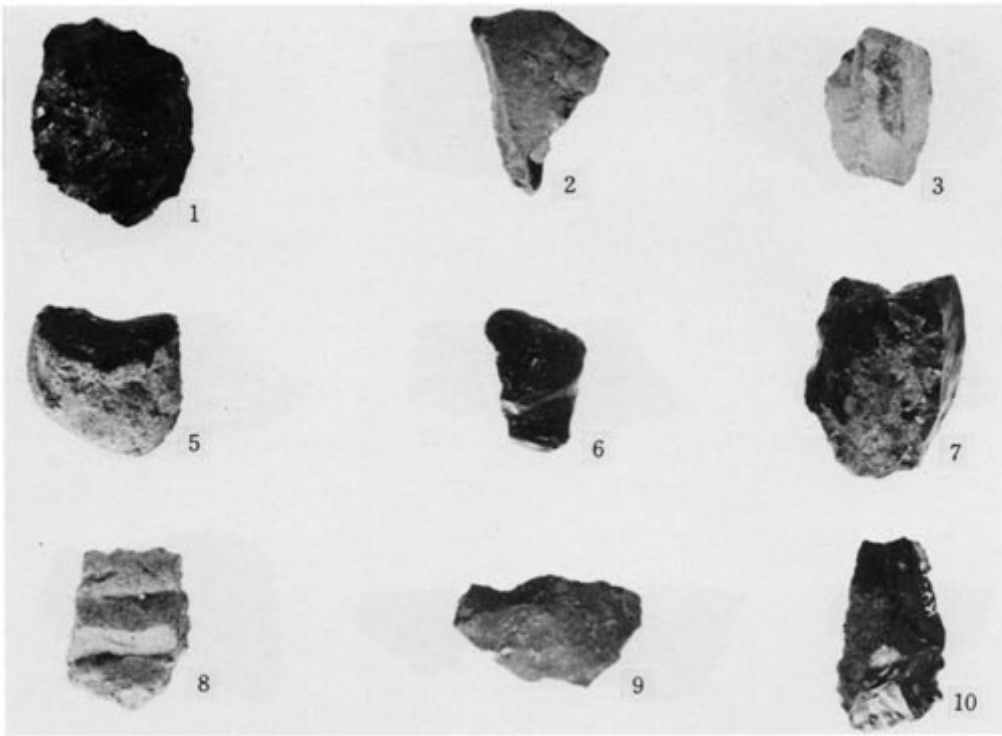


中野畑遺跡

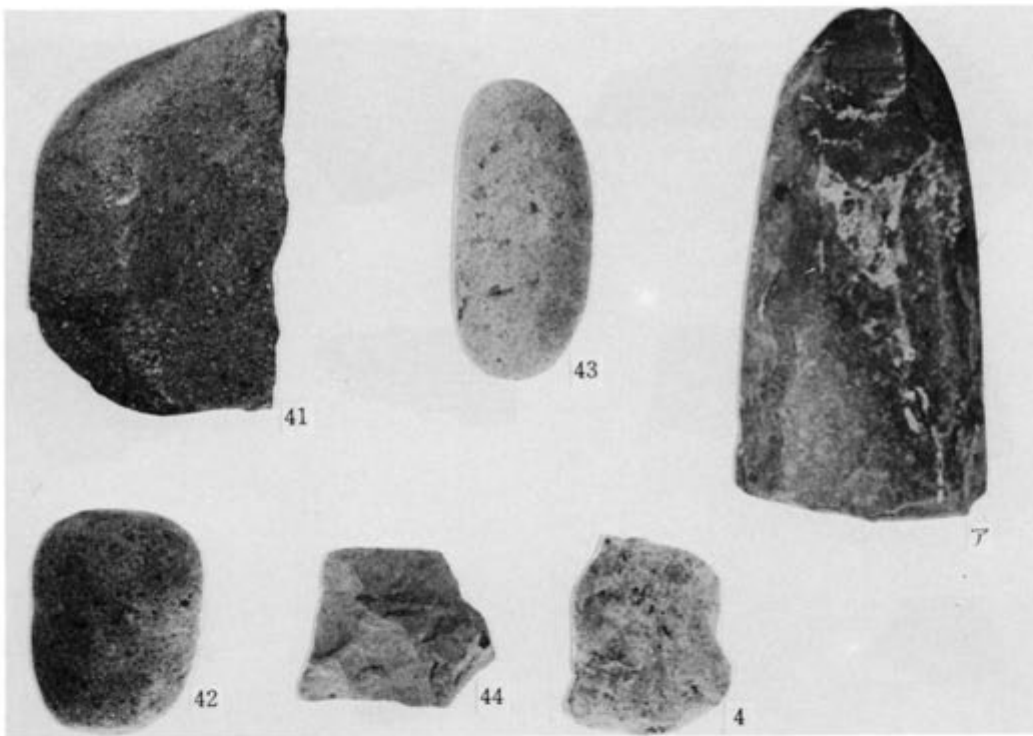
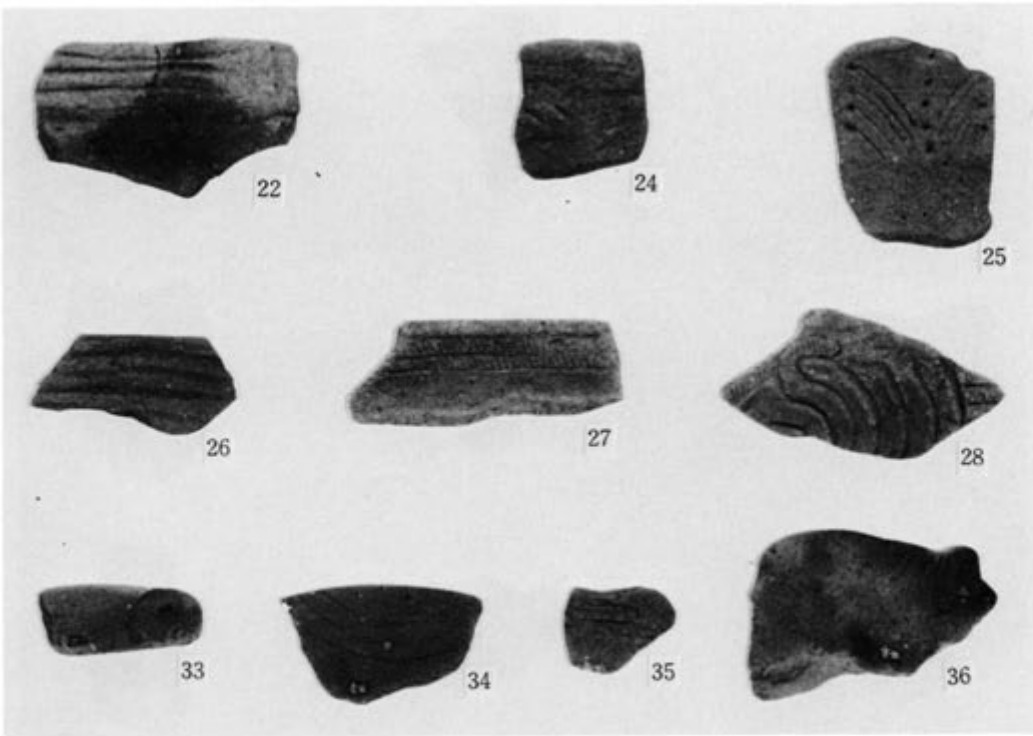


段ノ山遺跡

串木野市管内の遺跡遠景（2）



串木野市の採集遺物（1）



串木野市の採集遺物（2）



牛ノ江原遺跡



外戸遺跡
市来町管内の遺跡遠景（1）

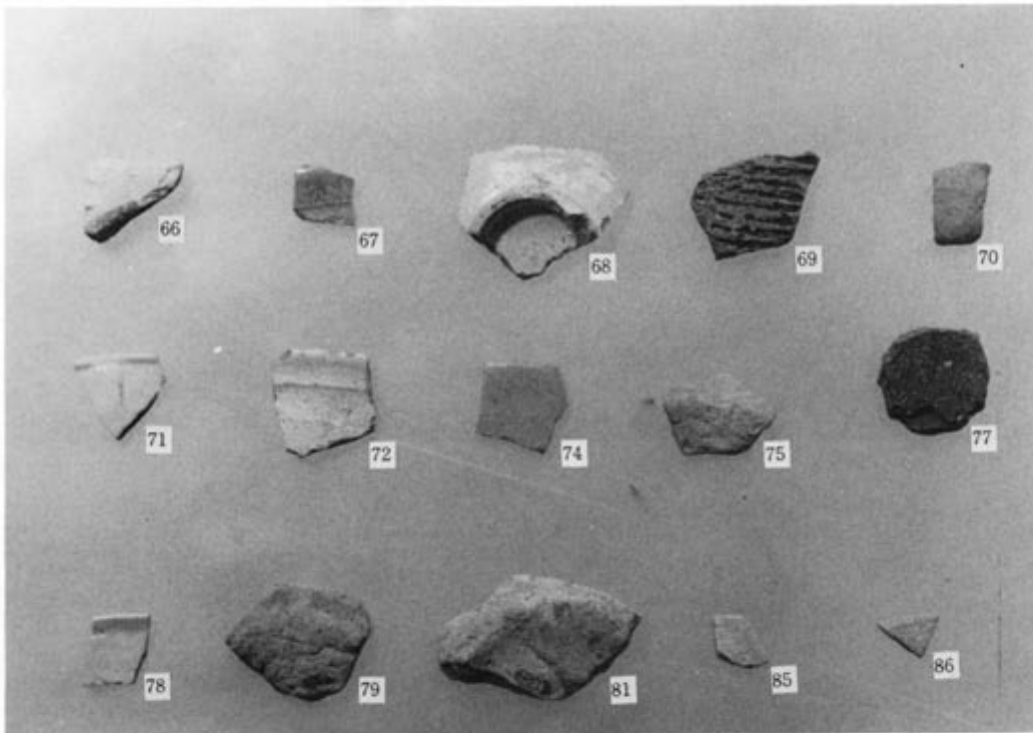
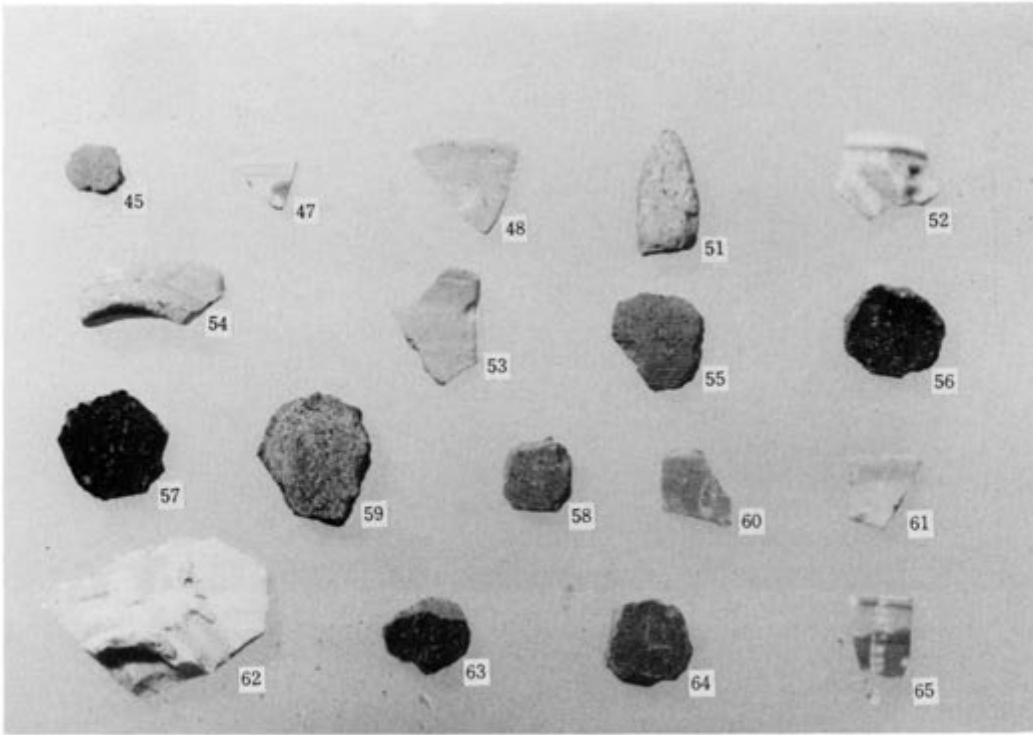


原ノ園前遺跡

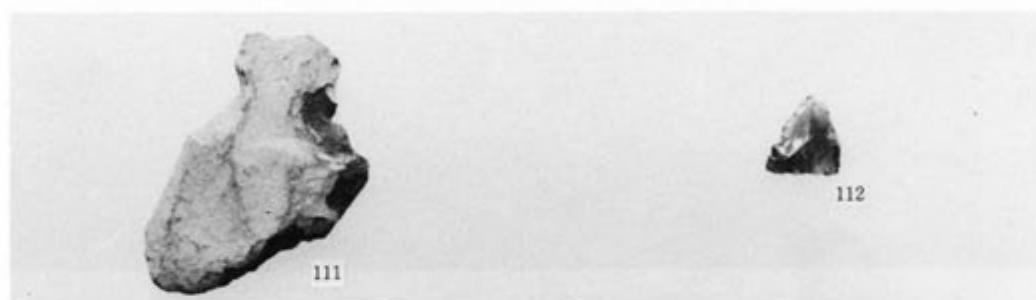
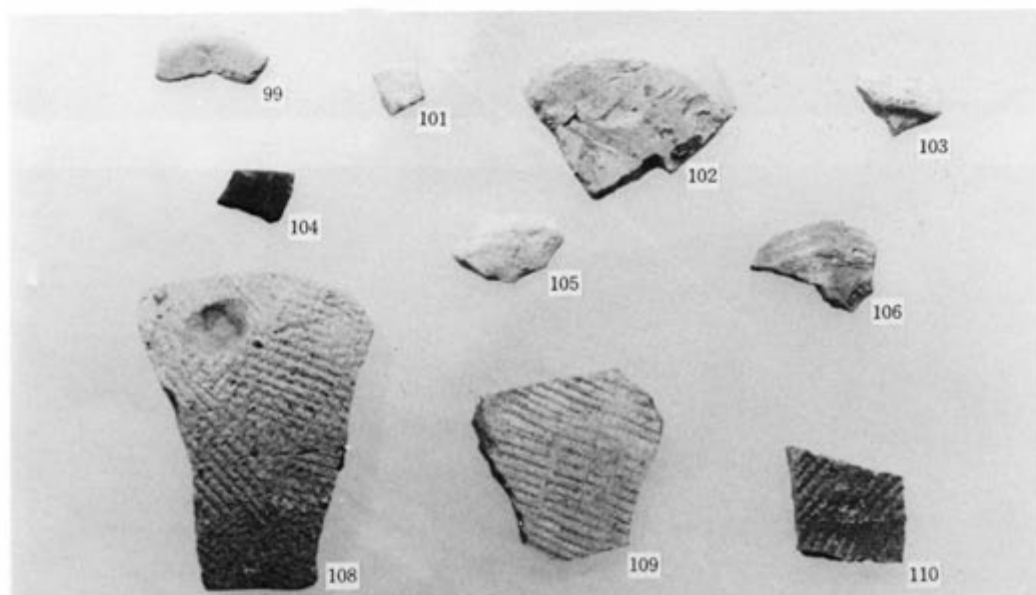
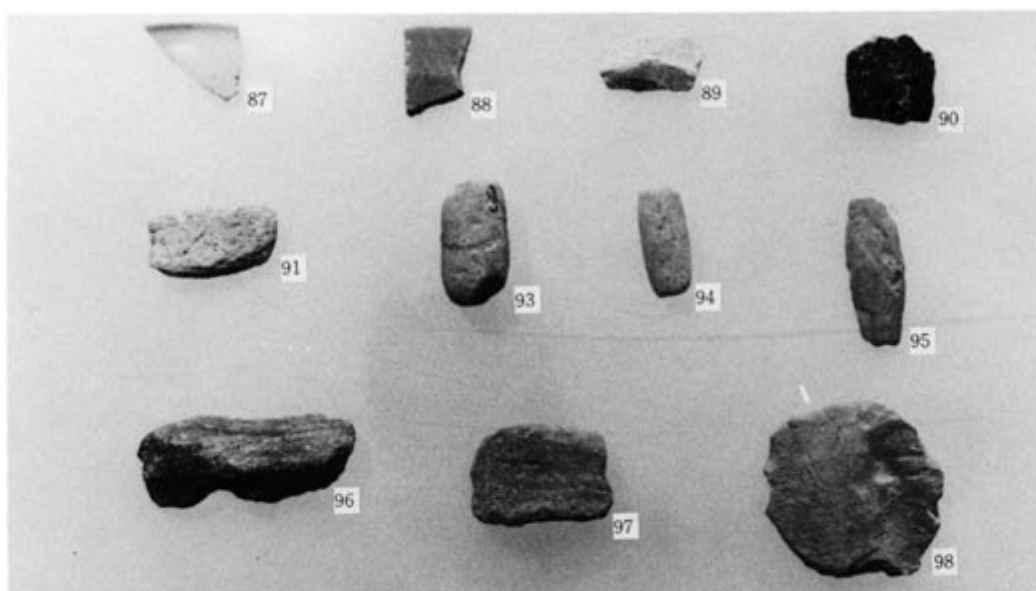


池原前遺跡

市来町管内の遺跡遠景（2）



市来町管内の採集遺物（1）



市来町管内の採集遺物（2）



尾木場遺跡



東下原遺跡

東市来町管内の遺跡遠景（1）



上松葉佐遺跡



今里遺跡

東市来町管内の遺跡遠景（2）

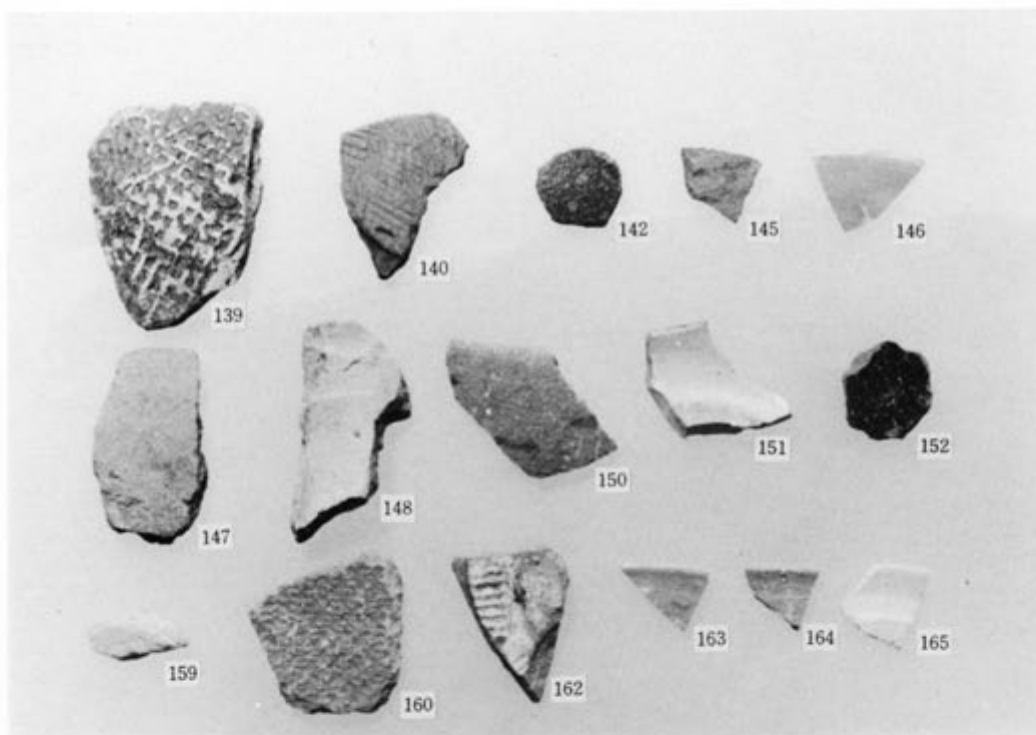
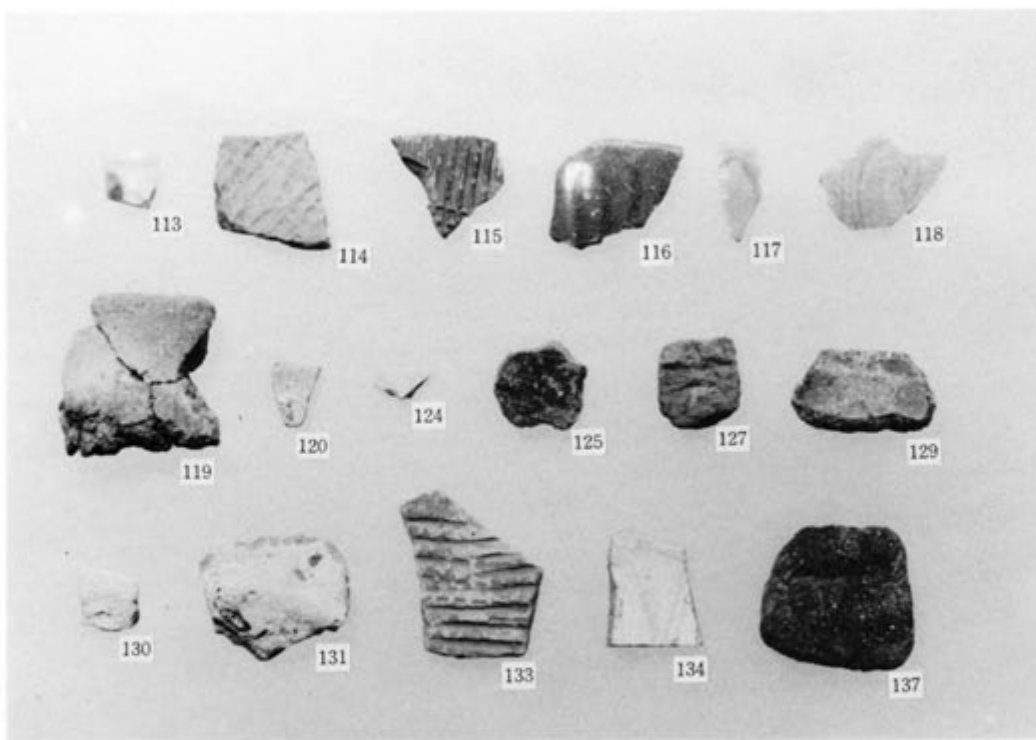


原 遺 跡

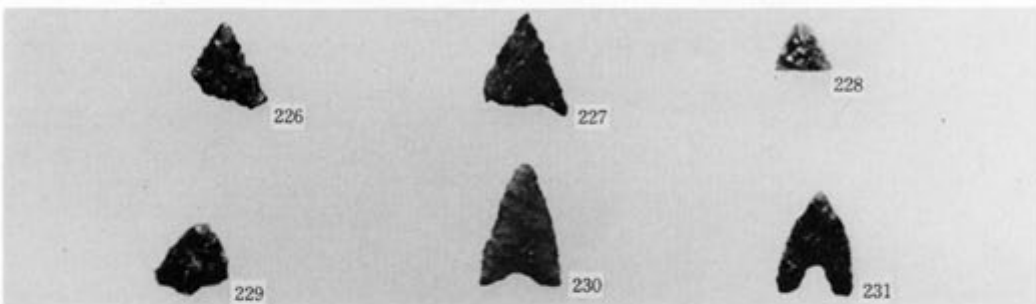
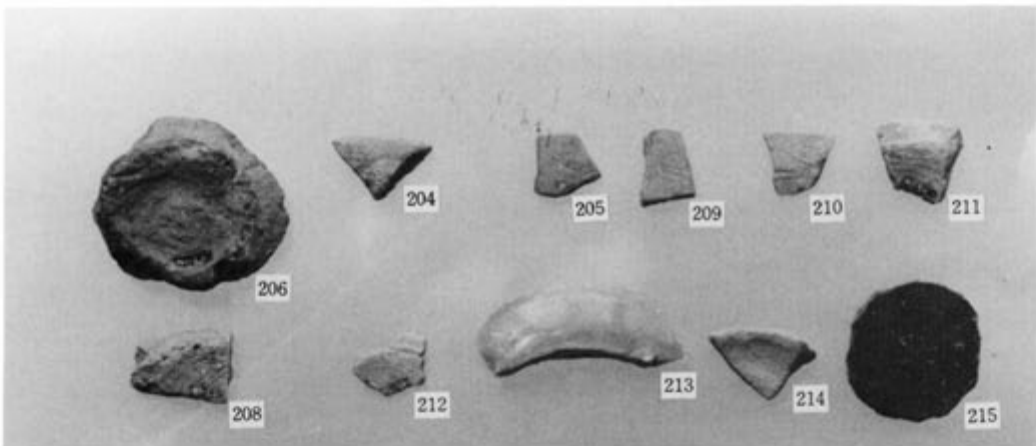
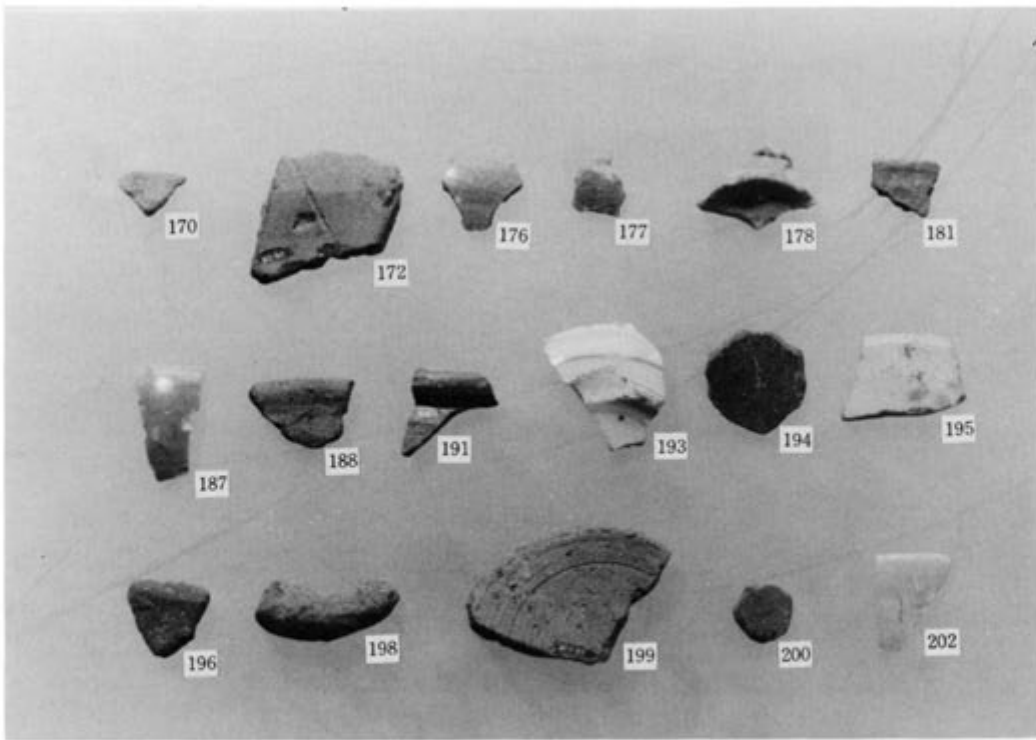


カ石ヶ原遺跡

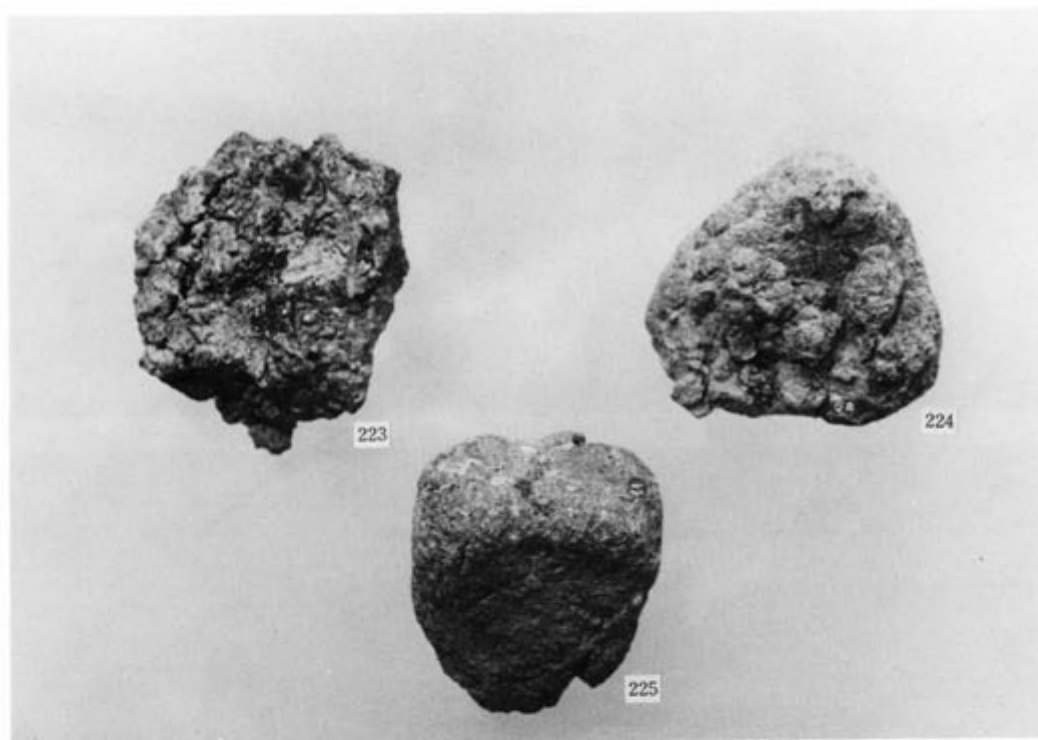
東市来町管内の遺跡遠景（3）



東市来町管内の採集遺物（1）



東市来町管内の採集遺物（2）



東市来町管内の採集遺物

あ と が き

本年度から始まった北薩、伊佐地区の埋蔵文化財分布調査は、今後、平成11年度までの9カ年間にわたって行われることになっており、調査終了時には4市13町4村に及ぶ広い地域に、これまで知られていなかった遺跡が名を上げることだろう。気宇壮大な計画といえる。

本年度は、その初年度として串木野市と市来町、東市来町の1市2町の調査を実施し、実に116の新遺跡を確認することができた。ボーリング調査を行っていないため、遺跡の土に埋もれた部分がどのようになっているかを知ることはできないが、全ての遺跡が旧故の遺物・遺構を現在のわれわれ、また、未来の地域住民にタイムカプセルとして厳然と保存しておいてほしいものだと思う。

116の遺跡の中には、「こんなところに遺跡が……」と驚かされる遺跡があるかと思えば、逆に「これだけいい地形なのだから、遺跡があるはず」と思って歩き回っても確認できなかったりと、われわれと遺跡のかくれんぼのような調査の日々だった。

そんな中であって、西回り高速自動車道予定地のルートに沿った堂平窯跡2号窯（仮称）の確認の意味は大きい。東市来町美山の薩摩焼の古窯であり、周辺には元屋敷窯跡、五本松窯跡、南京皿山窯跡、御定式窯跡、それに堂平窯跡などの窯跡群があり、町指定の文化財になっているなど広く知れ渡っている中であって、今回堂平窯跡の標柱の立つ尾根の裏手（東側）に、知られていない窯が確認されたことで、古文書や文献等を細かく検討してみる必要がでてきたと共に、周辺にもまだ見つかっていない窯跡のある可能性が出て来たことになる。窯の構造や焼いた陶器の種類、その販路、そしてまた、どのような陶人が携わったものか、その始源と終末は……などと、課題は尽きることがない。

ほかにも、広大な台地全体に及ぶ遺跡、斜面に広がる遺跡、極めて小さい砂丘上の遺跡など、未知のものを秘めている遺跡の数々――。

本事業を実施するにあたっては、プレハブの事務所を設置させていただき、連絡や休憩をさせていただいた市来町公民館の職員の方をはじめ、設置場所の提供を快く引き受けてくださった同町教育委員会など、管内地図や字名確認に携わっていただいた串木野市教育委員会、東市来町教育委員会に感謝すると共に、調査中にいろいろな情報をくださった地域住民の方々にもお礼を申し上げる次第である。

鹿児島県埋蔵文化財発掘調査報告書(61)

北薩・伊佐地区埋蔵文化財分布調査報告書(Ⅰ)

発行日 平成4年3月

発行者 鹿児島県教育委員会 ☎892 鹿児島市山下町14-50

印刷所 (有)アート印刷

住 所 鹿児島市東坂元2-1-29 ☎ 47-5111 FAX 47-5111